



# 2017 川の再生交流会

～流域でつながる 次世代とつなげる～

## 報告書

日時：平成29年2月4日（土）10時30分～16時

会場：さいたま市民会館うらわ

発行：埼玉県・埼玉県河川環境団体連絡協議会（埼河連）

# 目次

1.	プログラム	1
2.	御協力いただいた団体	2
3.	事例発表	3
4.	講演	13
5.	分科会	38
6.	アンケート結果	58

**午前の部参加者 約400名**

**分科会参加者 190名**

第1分科会 38名

第2分科会 29名

第3分科会 30名

第4分科会 29名

第5分科会 15名

第6分科会 31名

第7分科会 18名

# プログラム

## 午前の部：ホール

司会 県立浦和第一女子高等学校 アナウンス部

**10：30** 開会 ・オープニングコーラス - 県立松山女子高等学校 音楽部 -

**10：40** 挨拶 - 埼玉県環境部長 -  
川の国埼玉宣言 - 学校法人佐藤栄学園 栄東高等学校 理科研究部 -

**11：00** 2011年度より継続している芝川の上流から下流までの調査  
～少しずつ見えてきた生息生物の分布～  
- 学校法人佐藤栄学園 栄東高等学校 理科研究部 -

**11：20** 国・県と地域の連携  
①川のまるごと再生プロジェクト、水辺再生100プロジェクトの報告  
- 国土整備部水辺再生課／埼玉県河川環境団体連絡協議会 -

**11：50** ②荒川の再生事業と川の国応援団、埼河連の連携  
(ミツ又沼ビオトープと荒川太郎右衛門地区自然再生協議会)  
- 国土交通省荒川上流河川事務所／荒川の自然を守る会 -

**12：20** 午前の部閉会

## 午後の部：各会議室・ホール

**13：30** 分科会

**15：45** まとめ ※16：00 閉会



県のマスコットコバトン

## 御協力いただいた団体

### 司会 埼玉県立浦和第一女子高等学校 アナウンス部

平成19年、アナウンス愛好会として1年生3名でスタート。翌20年に同好会となり、23年にアナウンス部となる。主な活動は、アナウンス・朗読練習、ビデオ番組・ラジオ番組の制作。

発足以来、NHK杯全国高校放送コンテストの全国大会に10年連続で出場しており、第4位優良、第5位入選、制作奨励賞などを受賞。全国高等学校総合文化祭には9年連続で出場し、三重大会、福島大会、長崎大会では優秀賞を受賞した。

美しい日本語の習得と、地域話題を全国に発信することが目標。

11月の県高校放送コンクールにおいて、朗読部門で県知事賞を、ビデオメッセージ部門、朗読部門、オーディオピクチャー部門で高文連会長賞を受賞し、今年8月宮城県で行われる全国高等学校総合文化祭「宮城総文」への出場が決まっている。また、地域の各種イベントの司会への協力も行っている。



### オープニングコーラス 埼玉県立松山女子高等学校 音楽部

松山女子高等学校は、緑豊かな東松山市に立地し、今年で創立91周年を迎えた歴史と伝統のある女子高校。「川の国応援団」の登録団体としては、市野川を中心とした清掃活動を行うなど、地域貢献にも力を入れている。

音楽部は昭和30年頃に創部。現在は顧問の吉田みどり先生のもと140名の部員で活動中。コンクールでは数々の受賞経歴を持つ実力であり、平成28年10月には、全日本合唱コンクール全国大会において金賞・文部科学大臣賞を受賞した。クラシック曲から親しみやすいポピュラー曲までレパートリーは多岐にわたり、定期演奏会や招待演奏、各種コンサートなどの公演においても好評を博している。

「歌でつながる心と心。歌で誰もが幸せに！」部員は学年を超えてみんな仲良し。部活動に勉強に、何事にも全力投球！！





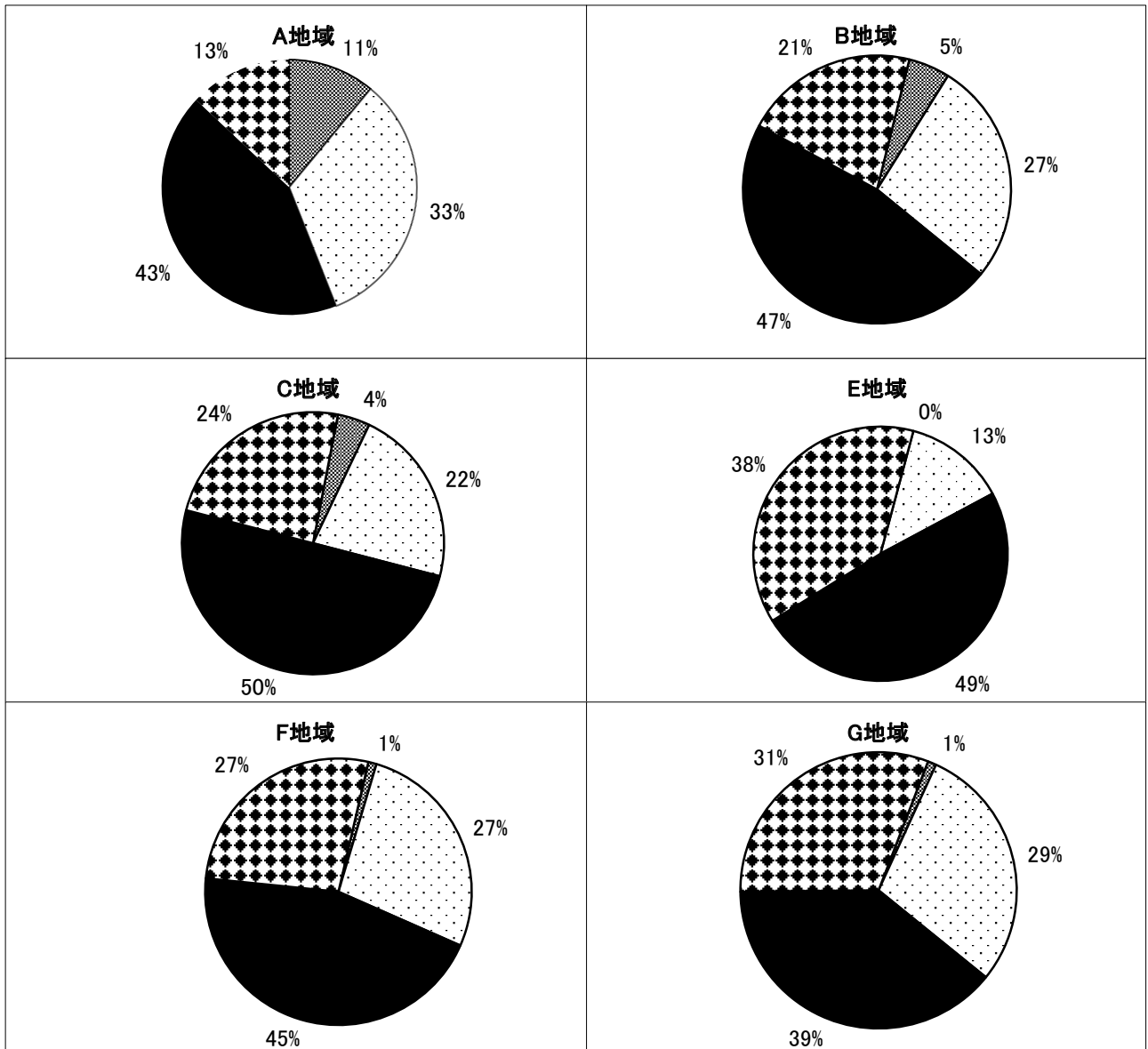
# 2011 年度より継続している芝川の上流から下流までの調査

栄東高等学校 理科研究部

平成 29 年 2 月 4 日

## ①流域住民の方々へのアンケート調査結果(2016 年 7～8 月実施)

質問：あなたの芝川に対するイメージはなんですか。









1.きれい

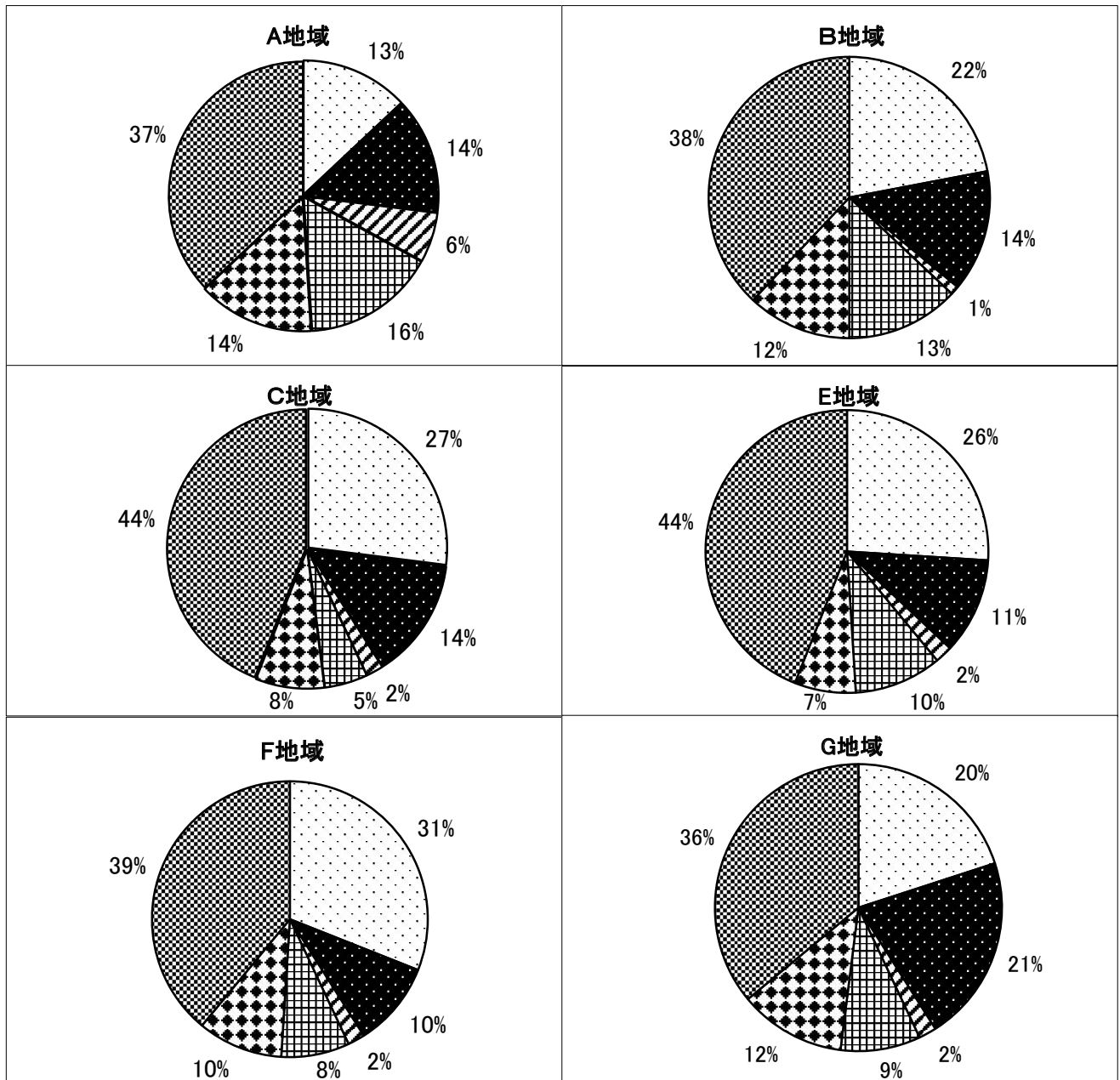
2.ややきれい

3.やや汚い

4.汚い

質問：あなたが芝川に求めるものをお答えください。(2つまで選択可)

- |                                                                                               |                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  1.護岸整備等の安全性 |  2.水に入って遊べるほどのきれいさ |
|  3.普段の水量の豊富さ |  4.生き物の多様性         |
|  5.地域の憩いの場   |  6.ゴミ等がなく緑豊かな景観の良さ |



②清掃活動調査のデータ詳細(2016年12月11日実施)

砂大橋(B 地域)

ビニール袋	0
食品ごみ	2
チューブ類	2
発泡スチロール片	5
ペットボトル	13
カン	16
プラスチック類	4
家電	2
ビン	2
網	1
スプーン	1
スプレー	1
タオル	3
ボール類	3
手袋	6
蛍光灯	1
紙類	7

砂橋(B 地域)

鏡	1
ペン	3
かご・ざる	2
うちわ	1
テーブルの脚	1
空気入れ	1
アルミホイール	3
ボタン	66
ネックレス	1
髭剃り	7
畳	6
木材	5
衣装ケース	1
割りばし	7
毛糸	3
椅子	2
タイヤのホイール	2
柄付き網	1
園芸用支柱	2

砂橋(B 地域)

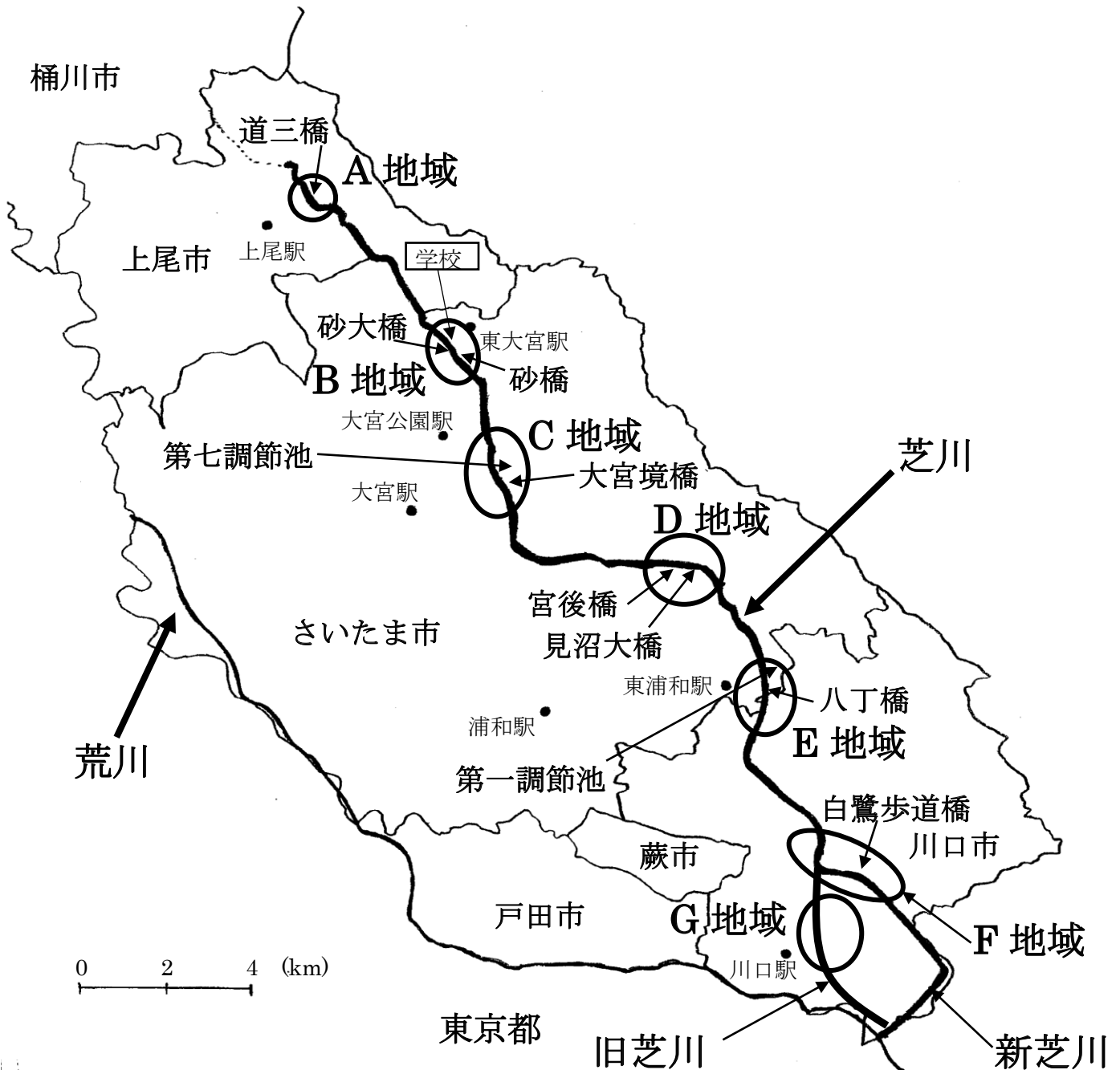
ビニール袋	8500(g)
発泡スチロール片	7
テニスボール	4
カン	78
ペットボトル	86
段ボール	3
衣料類	2
家電	10
乾電池	2
クリーム系	3
靴類	4
傘類	5
DVD	1
自転車のカギ	2
南京錠	2
眼鏡類	2
ライター	6
一斗缶	1
スポンジ	4
紙カップ	8
肥料の袋	6
たばこ	7
食品ごみ	9
マグネット	8
鉢・バケツ	13
ブラシ類	17
プラスチック類	75
ビン	41
金属片(鉄くず)	48
紙類	100
錠剤	90
スプレー缶	14
ヘルメット	2
灰皿	1
ほうき	1
はけ	1
道具箱	4
電卓	1
セルビン	1

八丁橋(E 地域)

ビニール袋	750(g)
カン	97
ペットボトル	62
電池	57
ビン	41
割れた陶器	36
ガラスコップ	23
たばこ	21
フライパンのとって	9
ビニール板	6
キャップ	5
自転車のタイヤ	3
洗濯バサミ	3
靴類	12
陶器	3
保冷材	2
トタンの切れ端	3
三角コーン	2
瓦のかけら	2
針金	2
土鍋	1
自動車類	3
一輪車のタイヤ	1
すのこ	1
パトライト	1
スプレー缶	6
カセットテープ	1
パソコン部品	1
傘の骨	1
タオル	1
燃えるゴミ	2970(g)
ビデオカセット	1
プラスチック容器	12
マグネット	1
プラグ	3
ヘラ	1
発泡スチロール片	1

単位は(個)

③芝川及び周辺の地図



【芝川の今昔】

約60年前は一面に水田が広がっていた。当時の芝川は清流と言えるほどの綺麗な川で、フナ・タナゴ・ハヤ・ドジョウ・ウナギも棲んでいて、水中めがねを着けて素潜りで魚をとれた。高度成長期の頃からか、上流から汚水が流されるようになり、ヘドロや泡にまみれて腐臭の酷い川になってしまった。今では下水道が網羅されたためか、鯉が棲める程度の川になったものの、昔の川から比較すると、綺麗な川とは言えない。

(清掃活動に参加下さった流域(砂大橋・砂橋周辺)にお住まいの方から教えて頂きました。)

# 2011年度より継続している芝川の上流から下流までの調査

～少しずつ見えてきた生息生物の分布～

栄東高等学校 理科研究部  
2年 今井旅生・齋木悠亮  
1年 田中健太・広川周作・長澤啓太

## お品書き

- § 1.はじめに
- § 2.芝川の水質の現状
- § 3.流域住民の方々との清掃活動
- § 4.芝川に生息している生物
- § 5.流域住民の方々へのアンケート
- § 6.まとめと今後の活動

## § 1.はじめに

### 芝川 上流～下流の旅



## 芝川のありがたみは？

## § 2.芝川の水質の現状

※今年度の水質調査は  
2016年9月19日に実施

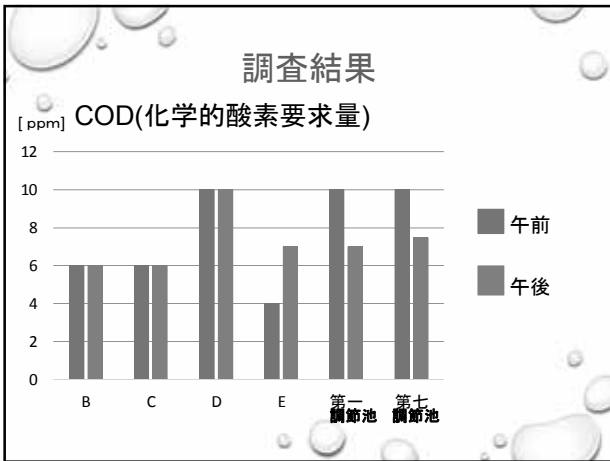
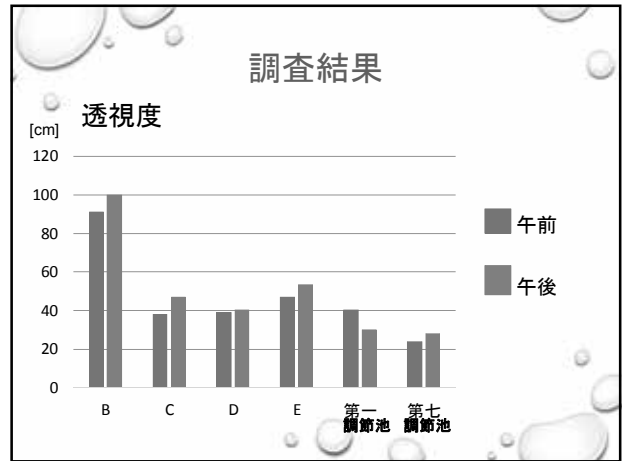
### 調査方法

#### パックテストを使用



↑ 比色の様子

水を採取して  
その場で測定  
→


### 水質調査結果の疑問点

- ・調節池やD地域でCODの値が高い
- ・B地域で透視度の値が非常に高い


➡ 疑問点を解決するため調査方法を考えながら今後も調査を継続していく

## § 3.流域住民の方々との清掃活動

### 調査方法



↓本校の校庭にゴミを並べて種類や個数を集計



↑地域の方々と協力して掃除 (E地域)

2016年12月11日実施

### B地域の結果

- ・カン ペットボトル ビン ビニール袋 など  
➡ ポイ捨て
- ・スポンジ 紙類 錠剤 ブラシ類 など  
➡ 生活ゴミ
- ・家電 畳 など  
➡ 家具の不法投棄

### E地域の結果

- ・カン ペットボトル たばこ など  
➡ ポイ捨て
- ・陶器 保冷剤 土鍋 など  
➡ 生活ゴミ
- ・自動車類 自転車・一輪車のタイヤ など  
➡ 車両の乗り捨て、放棄

### ゴミの一例

↓集めた大量のカン・ビン (E地域)

↑集めた粗大ゴミ(B地域)

### ゴミ集計結果の考察

- ・ポイ捨てが多い
- ・家具の不法投棄がかなり行われている
- ・車両の乗り捨てもされている

↓

芝川の重要性があまり知られていない

↓

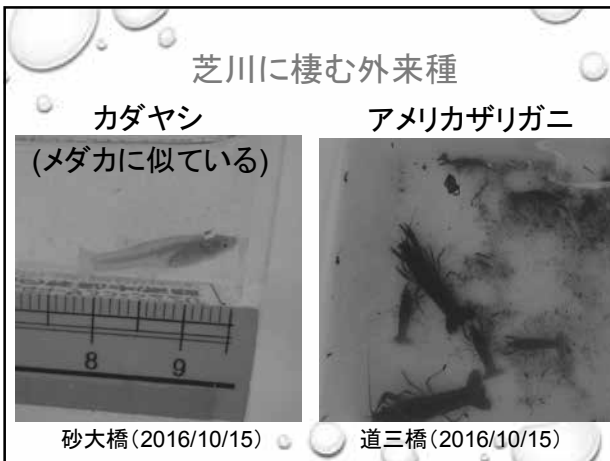
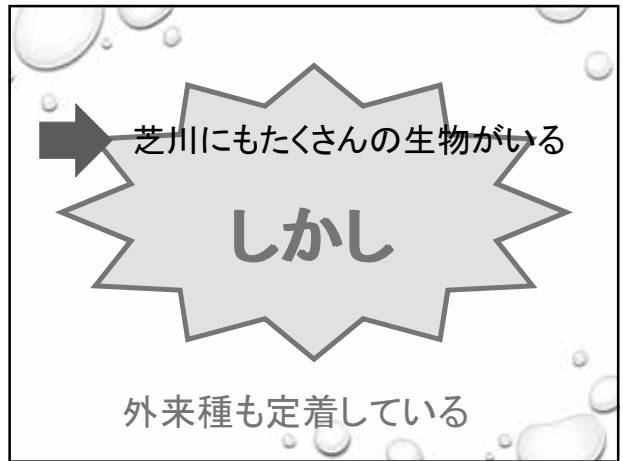
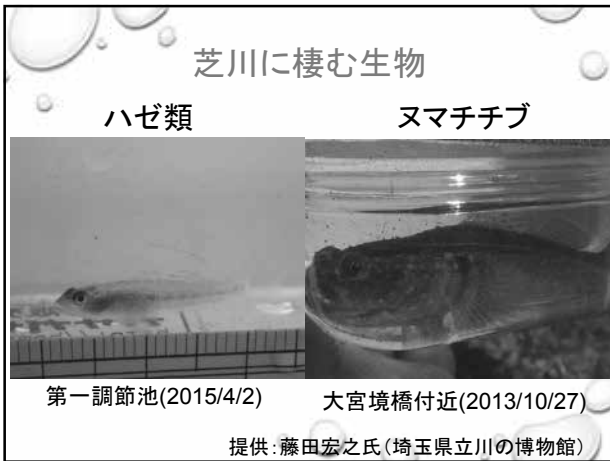
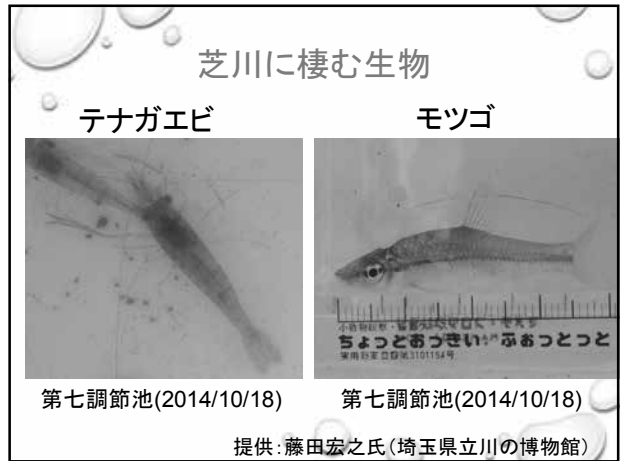
重要性を知ってもらう必要性

## § 4. 芝川に生息している生物

※写真は2016年10月15日に撮影したもの  
(それ以外の場合には、写真に日付を記載)

### 調査器具

<p>タモ網</p> <p>手持ちの網 小さな生物を捕獲するときに有効</p>	<p>セル瓶</p> <p>餌を中に入れて水中に沈め、魚をおびき寄せる</p>	<p>もんどり</p> <p>セル瓶と使い方は同じ</p>
---------------------------------------------	-----------------------------------------	-------------------------------





たくさんの外来種を捕獲

➡ 劣悪環境に強く、繁殖力旺盛な外来種が流域各所で定着

➡ ペット個体や購入・譲渡個体(カメ類・コイ・メダカなど)の放逐・放流の禁止を呼びかける必要がある

## § 5.流域住民の方々へのアンケート

### 調査・回収方法

アンケート用紙、資料を封筒に入れる

↓  
6地域(A.B.C.E.F.G)で各100世帯ずつ計600世帯に流域住民の方々へ手渡し

↓  
回答していただき、学校に郵送してもらう

↓  
回収・集計

2016年7~8月実施

### 回収率

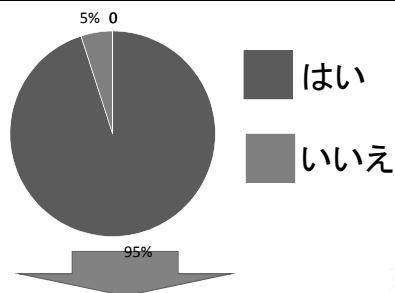
2012年に実施したアンケート調査の回収率

49%

2016年に実施したアンケート調査の回収率

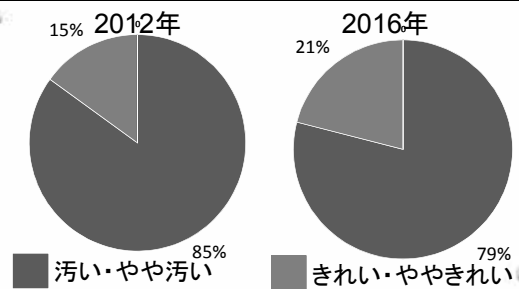
71%

質問:近くの川の名前が芝川だと知っていましたか



ほとんどの人が芝川のことを知っている

質問:あなたの芝川に対するイメージはなんですか?



➡ 芝川をきれいと感じる人が増加

質問: 芝川に求めるものをお答えください。

- 1.護岸整備等の安全性
- 2.水に入って遊べるほどのきれいさ
- 3.普段の水量の豊富さ
- 4.生き物の多様性
- 5.地域の憩いの場
- 6.ゴミ等がなく緑豊かな景観の良さ

## 結果

2012年実施アンケート・2016年実施アンケートともに

選択肢6 → 最も多い  
選択肢3 → 最も少ない

芝川に望むことは変わっていない！

## § 6.まとめと今後の活動

## 芝川の問題点

- ・水質があまり良いとは言えない
- ・外来種が多い
- ・ゴミが多い
- ・芝川の重要性があまり知られていない

## 今後の展望

芝川の環境を保護・改善するために、、、

- ・ゴミのポイ捨て・不法投棄
- ・ペット個体や購入・譲渡個体の放逐・放流

これらを芝川の重要性を訴えることで  
減らしていきたい

## 謝辞

藺田顕彦氏 (元 国土交通省中部地方整備局)  
鈴木あや子氏 (日本エヌ・ユー・エス株式会社)  
藤田宏之氏 (埼玉県立川の博物館)  
吉富友恭氏 (東京学芸大学)

以上、ご指導を頂いてる共同研究者  
芝川流域にお住まいの皆さま  
栄東中学・高等学校(理科研究部)の卒業生  
※今年度の調査は、  
「平成28年度公益信託武蔵野銀行  
みどりの基金 助成金」  
を頂いて実現致しました。

**川の再生事業(川のまるごと再生プロジェクト・水辺再生100プラン)**  
**「川の国埼玉」をめざして**  
 平成29年2月4日  
 水辺再生課



御蔵川 (とちがわ町)  
 御蔵川: 行幸川 (中津市)  
 入間川 (飯沼市)  
 荒川 (黒川町)  
 大宮合利根川 (春日部市)



①

**埼玉県の河川**




利根川水系	62 河川
荒川水系	98 河川
計	160 河川

②

**埼玉県が持つ「川のポテンシャル」①**

**埼玉県には川についての日本一が2つあります**




①川の幅  
**2500m**  
 ②県の面積に占める水面の面積  
**3.9%**

③

**埼玉県が持つ「川のポテンシャル」②**

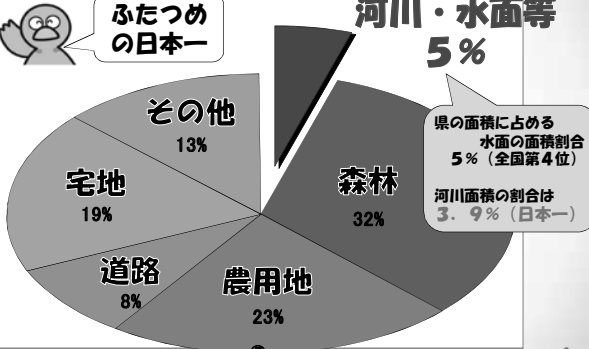
ひとつめの日本一  
**荒川の川幅が日本一**  
 (吉見町と鴻巣市の間)

④

**埼玉県が持つ「川のポテンシャル」③**

ふたつめの日本一



河川・水面等 **5%**  
 森林 32%  
 農用地 23%  
 宅地 19%  
 その他 13%  
 道路 8%

県の面積に占める水面の面積割合は **5%** (全国第4位)  
 河川面積の割合は **3.9%** (日本一)

土地利用形態別の面積割合

⑤

**川の再生の基本方針 (H19策定)**

**埼玉県では、県民のみなさんが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国 埼玉」の実現を目指しています。**

⑥

## 川の再生の4つのポイント (安らぎと賑わいの創出)

### ポイント1 自然や親水機能の保全・創出

- 多自然川づくり
- 親水機能を持った護岸や遊歩道の整備



柳瀬川 (所沢市)



楳川 (東武村)

### ポイント2 水辺の魅力創出・発信

- 地域イベントに合わせた護岸の整備
- 川を活用したイベントの開催



新河津川 (川越市)



荒川 (行田市)

## 川の再生の4つのポイント (清流の復活)

### ポイント3 水環境の改善 (水質・水量)

主に都市地域  
公共下水道への接続

主に郊外地域  
単独浄化槽から  
⇒合併処理浄化槽への転換

### ポイント4 川の浄化ムーブメント

- 河川愛護交流会や出前講座の開催
- 川の自然探検や地域住民による活動



出前講座



植栽活動

## 川の再生の取組

清流の復活 安らぎと賑わいの空間創出

川の再生

県民誰もが川に愛着を持ち、  
あると埼玉を賞賞できる  
『川の国埼玉』を実現する

#### 平成20～23年度 水辺再生100プラン



- ・川の再生のリーディング事業として集中整備
- ・4年間で100か所を再生

#### 平成24～27年度 川のまるごと再生プロジェクト

- ・「点」から「線・面」への再生へ
- ・市町村のまちづくりと一体
- ・17の川で取組を推進

代表モデル5か所 (芝川、藤右衛門川など)

- ・2年間で一気に整備
- ・芝川での取組がテレビ放映

確かに変わった川の姿を賞賞

## 水辺再生100プラン実施箇所

4年間で県内100箇所の水辺を再生



拡大図

#NO.9

## 川のまるごと再生実施箇所

4年間で県内17河川の水辺を再生

河川	再生箇所	再生内容	
H24	1	荒川	新設、整備
	2	入間川	護岸、川床
	3	荒川	川床、護岸
	4	荒川	川床
	5	荒川	川床
H25	6	荒川	川床、護岸
	7	荒川	川床、護岸
	8	荒川	川床、護岸
	9	荒川	川床、護岸
	10	荒川	川床、護岸
H26	11	荒川	川床、護岸
	12	荒川	川床、護岸
	13	荒川	川床、護岸
	14	荒川	川床、護岸
	15	荒川	川床、護岸

## 川の再生の成果 (安らぎと賑わい空間)

### 水辺の拠点

人々が水に近づき、集える場 104か所

県内各地で開催される  
川遊びイベント  
などで活用




### 遊歩道

水辺空間を楽しめる遊歩 150km を整備

78か所、計70kmを整備  
17の川で計80kmを整備  
利用しやすくなる  
快適性が向上






## 川の再生事業「100プラン」と「まるごと」の終了に当たって

埼玉河連の大石です。

昨年の3月をもって県が推進した「川の再生100プラン、まるごと再生事業」は終了しました。

本日、午後の分科会は水系別、流域別の分科会に設定したのは、川の再生事業終了後の市民運動のあり方、埼玉河連の進むべき方向性を求めたものです。

川の再生事業は、10年前に県が推進しますが、新聞発表以外はトンと中身が不明で、いくら説明せよといっても3月の議会で決定されるまでは説明会は開けないというのです。

結局、2月になって河川団体がバラバラでは対応できない、全県をネットする連合体をつくることになり、県土整備部の担当課長を呼び事業の説明会を行いました。

場所は、なんと埼玉新聞社本社の会議室を借り受け、主たるメンバー16名で埼玉河連を発足させたのです。

本日は100プラン、川のまるごとについては、とてもコメントできません。先ほどの件の発表でご勘弁いただき、いくつかについて埼玉河連として総括、評価を申し上げます。

- ① この再生事業は、我々市民団体が日ごろ川をきれいにしたい、魚が泳ぐ環境、豊かな川にしたいとの願いを一つの方向にまとめ上げ、県、市、住民が友に汗を流した8年間の運動でありました。おそらく、全国的にもこれほどの大運動は例がないでしょう。
- ② 残念ながら、住民参加という最も大切な側面において、住民とは町会であって、NPO、市民団体が置き去りにされた事例が多かったです。  
別の評価をすれば、我々にはその力量が足りない、無視されて素通りされる結果になりました。
- ③ 全体の事業は出発の段階からボタンの掛け違いをしておりました。川の再生事業について我々は自然再生事業として捉え、自然の復活、再生と位置付けたため、出発からトラブル、協力・連携のシステムづくりに失敗しました。
- ④ ともあれ、8年間の再生事業は大きな成果を残して集結しましたが、中途半端になっているところもあります。埼玉河連の皆さんがしっかりと、この後を引き継いで次のステップに進んでください。

### 【桁川について】

対岸は東京都、足立区です。綾瀬川から中川へと流れる農業用水、運河の役割です。水門で閉鎖したためへドロが溜まり、田んぼのような状態でした。

県が東京都、足立区と連携、費用を分担して河川そのものには手を付けず、へドロ除去と水質改善を目的とした事業でした。

事業終了後、綾瀬川の水は流れて中川へ、へドロは年々少なくなっています。八潮市、

八潮の川をきれいにする会は毎年測定して報告書をつくっておりますが、事業終了後、5年経過してもなお責任をもってフォローしているのは、この八潮の川をきれいにする会のみです。敬意をもって高く評価される活動です。

#### 【芝川】

一番予算を投入したのは芝川です。唯一、水質改善を事業目的としたところでは、

河道左側の旧鳩ヶ谷市側は下水道が完成していないので、下水をこの河川の中で礫間浄化法で水質改善してから芝川に戻します。上部は実にきれいな歩道にしました。

古紙パルプ工場も協力するシステムづくりに成功したことも画期的な事例になりました。

#### 【日高、高麗川】

埼玉県が誇る水質ナンバーワン、BOD値で0.3以下です。

巾着田から下流～坂戸に至る10km以上に歩道を整備する計画です。

埼玉河連は8年間の事業の中で、事業に全面的に反対し、撤回を求める声明を発したのは、ただ一つこの事業でした。

県下一の清流を誇る高麗川に土足で踏み込み、二度と復元できないコンクリート歩道をつくることは清流破壊、環境破壊のモデルのようなものです。

残念ながらこの事業に県の環境部、水環境課も賛成していて、返す返すも残念な出来事でありました。

事業は現在、最終段階の工事をしてしていますが、計画をかなり縮小したものになっています。

#### 【笹目川】

フェンスのない川は、永年主張し続けてきましたが、戸田市笹目川で実現しました。この笹目川は荒川の笹目水門から上流をさかのぼると県庁の東門下の交差点になります。

さいたま市、県庁から6km歩くと荒川に出られるほほ道が通じたのです。フェンスをつくらないと住民は不安になります。日常の連携が大切になります。

#### 【全体として】

今回の再生事業は住民、市民団体が現状の力の中で精一杯取り組んだものであり、行政と連携することの難しさ、活動の仕方を学んだ貴重な体験をしました。

これからの活動に生かしていく確かな足固めをしたはずで、100プランに選定されなかった各地で活動する皆さん方も埼玉河連というネットワークを足場にして流域、水系での活動を展開されることを望みます。午後の分科会でおおいに議論、交流してください。

2017.2.4 埼玉河連

# 三ツ又沼ビオトープ



荒川の河口（東京湾）から上流に48kmのぼったところ、埼玉県上尾市、川越市、川島町の境の荒川河川敷にある、三ツ又沼ビオトープ。「ビオトープ」は、ドイツ語で、地域の野生の生きものがくらす場所、という意味です。

三ツ又沼とそのまわりには、昔から植物が豊かに茂り、鳥やトンボなどたくさんの生きものがくらしています。海をこえてやってくる鳥などにとっても大切な自然です。



カイツブリの親子

発行 国土交通省関東地方整備局  
荒川上流河川事務所  
監修 公益財団法人 日本生態系協会

## 三ツ又沼ビオトープのれきし



むかし  
荒川と入間川は  
くっついていた

洪水を防ぐために  
川の流れをつけ替えた



流れの一部が  
「三ツ又沼」として  
残った。

三ツ又沼周辺は、かつて荒川と入間川が合流していた流れのなごりがあり、昔からの荒川らしい自然が残る大切な場所です。この貴重な自然をずっと残していけるようにと、地元的环境団体や地元の住民などが、「ここを守ってほしい」と荒川を管理する荒川上流工事事務所（当時）に相談しました。

国はそれを受けて、三ツ又沼周辺の土地を買い取り、全体13ヘクタールの生きものが暮らす場所をつくり、平成13年から「三ツ又沼ビオトープ」と名付けて、この場所を守ることにしました。

## 三ツ又沼ビオト

生きものが主役となる、沼や池のまわりの草はら、林などのいろいろなビオトープを守り育てます。

荒川の水と緑のネットワークの重要な拠点とします。

## そのた

たくさんの生きものもらうために、三ツ又沼はどうやって守るのかをいきました。

そして、今のまわりにしておく場所や、守るために協力して作りました。

たとえば、こんな

- 環境・利用状況など
- 外国の草を抜いて
- 木を植えたり、手

## アクセスマップ



○JR上尾駅、川越駅、大宮駅より東武バス  
○入間大橋バス停より徒歩約20分

## ●お問い合わせ●

あらかわ市民環境サポーター事務局

国土交通省 関東地方整備局

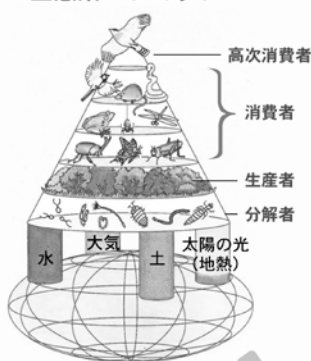
荒川上流河川事務所

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町3-12  
電話 049-220-0145 (河川環境課)  
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/araajo/>

H27.3

## 自然のしくみとつながり ~三ツ又沼ビオトープはなぜ大切

### 生態系ピラミッド



土台が一つでも汚されたりバランスがくずれると生きものも姿を消します。人間も生きられません。

■「水」、「空気」、「土」、「太陽の光」と、この4つを土台に「野生の生きもの」が暮らしています。これら5つの要素がふくまざらば関係しあってつくる世界を「自然生態系」といいます。

人間の生活も、バランスのよい自然生態系のもとになりたっています。自然生態系が守られてはじめて私達は生きていくことができるのです。

■ビオトープは、川や池などの地域の野生の生きものがくらす場所です。多くの生きものがくらす場所を必要とし

林の下で冬眠。

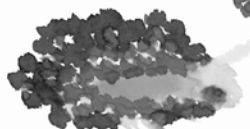
ニホンアマガエル

みずべ オタマジャクシが育つ。

三ツ又沼ビオトープには、いろいろな種類の生きものが訪ねてきます。

■たくさんの生きものがくらす場所を必要とし、豊かな自然に育つ。荒川のまわりでは、三ツ又沼ビオトープを守り、なくさないように育て、川を軸につな

大拠点



ビオトープネットワーク





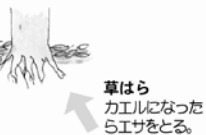
人々が、自然・生きものとふれあう環境教育の場として活用していきます。

かに...

ものに喜んですんで  
ツ又沼ビオトープを  
びがいいのか、話し合  
まの自然をそと残  
もつといい自然を戻  
作業する場所などを  
作業をしています。  
などを調べています。  
います。  
入れをしています。

なの?~

、草はら、森など、  
らがくらす場所  
は、いくつものピ  
ます。



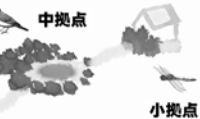
草はら  
カエルになった  
らエサをとる。



ープには、いくつも  
ブがあるので、いろ  
れます。

ープがそろい、つな  
ど、生きものがあふ  
ります。

今、残っているピオ  
なったものはつくり  
げています。



川や樹林などの自然を拠点でつなぐ

ワークのイメージ

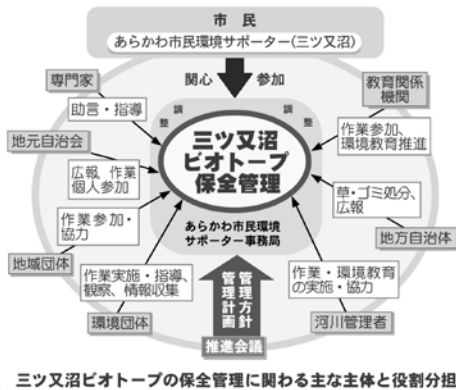
みんなでいっしょに ~パートナーシップによる河川管理~

三ツ又沼ビオトープをよくするために必要な、保全管理作業の方法や時期、自然の状況などについて、いろんな人が関わり、いっしょに

- 考える ○計画する ○取り組む
  - 調べる ○調整する ○報告する
  - 見守る ○見直す
- など、協力しています。

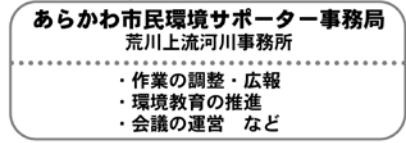


三ツ又沼ビオトープ保全ミーティングの様子



三ツ又沼ビオトープの保全管理に関わる主な主体と役割分担

三ツ又沼ビオトープパートナーシップ推進会議  
関係する人達が、三ツ又沼ビオトープの保全・管理・利用の方針などについて話し合います。



三ツ又沼ビオトープ保全ミーティング  
環境団体・あらかわ市民環境サポーターを中心に定期的に集まり、具体的な保全管理作業の進め方の確認・協力や情報交換をします。

環境教育における活用

三ツ又沼ビオトープは、体験を通して周辺の市民や子ども達が荒川の自然について学ぶ場としても活用しています。

- 例)
- 学校の総合的な学習の時間
  - 学校教員の研修
  - 生涯学習



募集中! あらかわ市民環境サポーター制度

あらかわ市民環境サポーター(三ツ又沼)って?

荒川の貴重な自然である三ツ又沼ビオトープを大切に思い、共に守り育てる人

こんな仲間を増やすために、荒川上流河川事務所が認定・登録するボランティア。

● サポーターになるには ●

三ツ又沼ビオトープで  
行われる保全管理作業\*に  
3回以上参加

希望・申請 ※作業予定はホームページでも確認できます。

あらかわ市民サブ環境サポーター(三ツ又沼)

活動内容 見回りと報告・保全管理作業等のサブリーダー  
特典 認定証・『あらかわ市民サポーターブック(基礎編・資料編・ファイル)』・腕章を支給

1年以上の経験を  
積んで、研修等を受けます...

あらかわ市民環境サポーター(三ツ又沼)

保全管理の中心的リーダーとして活動します。

くわしくは、あらかわ市民環境サポーター事務局までお気軽にご連絡ください。

わたしたち  
からのお願い



三ツ又沼ビオトープは、野生の生きものが主役です。生きものからのお願いを守りましょう。

- ★観察路(木道)からおりないで観察しましょう。
- ★動物、植物はみるだけ。とらないでください。
- ★魚をとったり、放したりしないでください。
- ★まわりの農地、農道、ゴルフ場には入らないように。
- ★ゴミは自分で持ち帰ってください。
- ★火は危険なので使わないでください。
- ★私たちはこわがりなので、ペットはつれてこないでください。
- ★車は専用の駐車場にとめてください。



## ようこそ 三ツ又沼ビオトープへ



三ツ又沼ビオトープには  
沼や草はらがあり、さまざまな  
生きものが訪れます。

なつかしい出会いや新しい発見を  
見つけに来てみませんか？

### ●子どもがはぐくむビオトープ

～荒川ハンノキプロジェクト～



埼玉県の蝶ミドリシジミの幼虫のエサとなるハンノキは荒川流域で減りつつあります。

このプロジェクトは、  
地元の小中学生をはじめとする市民がハンノキを種から育てて植え戻すプロジェクトです。学習活動にも役立てられています。



### ●市民がはぐくむビオトープ（保全管理作業）

初夏の夕暮れ時、  
たくさんの方々が美しい  
チョウ、ミドリシジミが  
飛び交う姿を観察して  
訪れます。



地域の自然を守る活動にも  
たくさんの方々が参加。  
セイカアザミ、チヂミなど  
外国の植物も、小さいうちで  
抜いてます。

荒川の自然の草原を守る  
ために、外国から持ち込ま  
れた植物を市民の力で抜いて  
荒川の自然本来の草原をそだ  
てていく活動をしています。



環境団体などが主に週末にボランティアで行っているビオトープ保全管理作業には、だれでも楽しく参加できます。

日には、荒川上流河川事務所のホームページやハンノキ広場の看板などを通じてお知らせします。サポーター事務局にもお問い合わせください。

## ヤナギの林

◇ 湿地に生えるタチヤナギ、アカメヤナギ等の樹液や葉を求めて昆虫が集まり、野鳥も集まってねぐらとします。コムラサキの幼虫はヤナギの葉を食べて成長します。春に種のわた毛がふわふわと舞う様子は幻想的。



コムラサキ



ノギリクワガタ



ハンゲショウ



◇ コムラサキなどがずっとすみ続けられるヤナギの林と、まわりの湿地が一体として残るように、調査をしながら見守ります。

## 生きもの

### オギの

◇ 秋に銀色の穂がかがや水につかる場所にあり、ネズミは、オギの葉を食べて、昆虫が多く、幼虫は野



キンイチモンジセセリ



◇ 外国と生をう動物除き



### オオタカ

大きさはカラスくらい。時々三ツ又沼ビオトープにえさ（主に野鳥）をとりに訪れるよ。上空でカラスがさわいでいたら、空を見上げてみよう！



### ホンドカヤネズミ

尾をのぞいた身体の大きさは6cm。日本で一番小さな野ねずみ。春と秋にオギ原のなかに丸い巣をつくり、子育てをするよ。



駐車場・トイレ

（川島方面）  
入間川・県道339号

もっとあふれるこんなビオトープをめざしています！

### オギの草はら

オギの草はらは、時々  
ます。小さなホンダカヤ  
使い丸い巣をつくりま  
鳥たちの貴重なえさにな



セツカ

ホンダカヤネズミ

の植物は、日本にもとも  
えていた植物が育つ場所  
ばい、その植物が好き  
もなくなるので、取り  
ます。

### ヨシの草はら

◇ 荒川が氾らんするしめった環境や水ぎわなどの  
代表で、希少な草花も共に育ちます。水をきれ  
いにする働きもあります。ヨシの根元でくらす  
小魚やヤゴ、巣をつくる野鳥、えさをとるイタチ  
など、生きもの達でにぎわっています。

オオヨシキリ

ヨシゴイ

ハナムグラ



◇ ヨシの他、希少種を含めた  
いろいろな植物が芽を出す  
ように、一部のヨシを冬に刈り  
取り、春の日当たりをよくし  
ます。

・その他、ハンノキ林、クヌギ・ムクノキ林なども守り育てます。

### みずべ (池や沼・昔の川の流れ)

◇ 荒川の流れから離れた池や沼に水草が葉を広げ、  
ミクリ、タコノアシなどの希少植物が点々と姿を  
見せます。魚、トンボ、水鳥のいこいの場です。  
大雨が降り、上流から水が流れこむと、昔の川  
のようになります。

カワセミ

メダカ

ヒシ



◇ 最近では外国の魚・ザリガ  
ニ・カメ・カエルなどが、み  
ずべにすむトンボのヤゴをは  
じめ、小さな昆虫や魚を食べ  
ることが問題になっています。

クヌギ、ハンノキ、  
ムクノキなどが連な  
り、木陰がさわやか  
な散策路です。



クヌギやムクノキの苗を植えて林を育  
てています。



(上尾方面)  
荒川・西野橋

ハンノキ広場  
(情報スポット)

オギの草はら

三ツ又沼

ヤナギの林

斜面林



湿地の場所をながめると、  
昔の川の流れを感じます。

観察路

ヨシの草はら



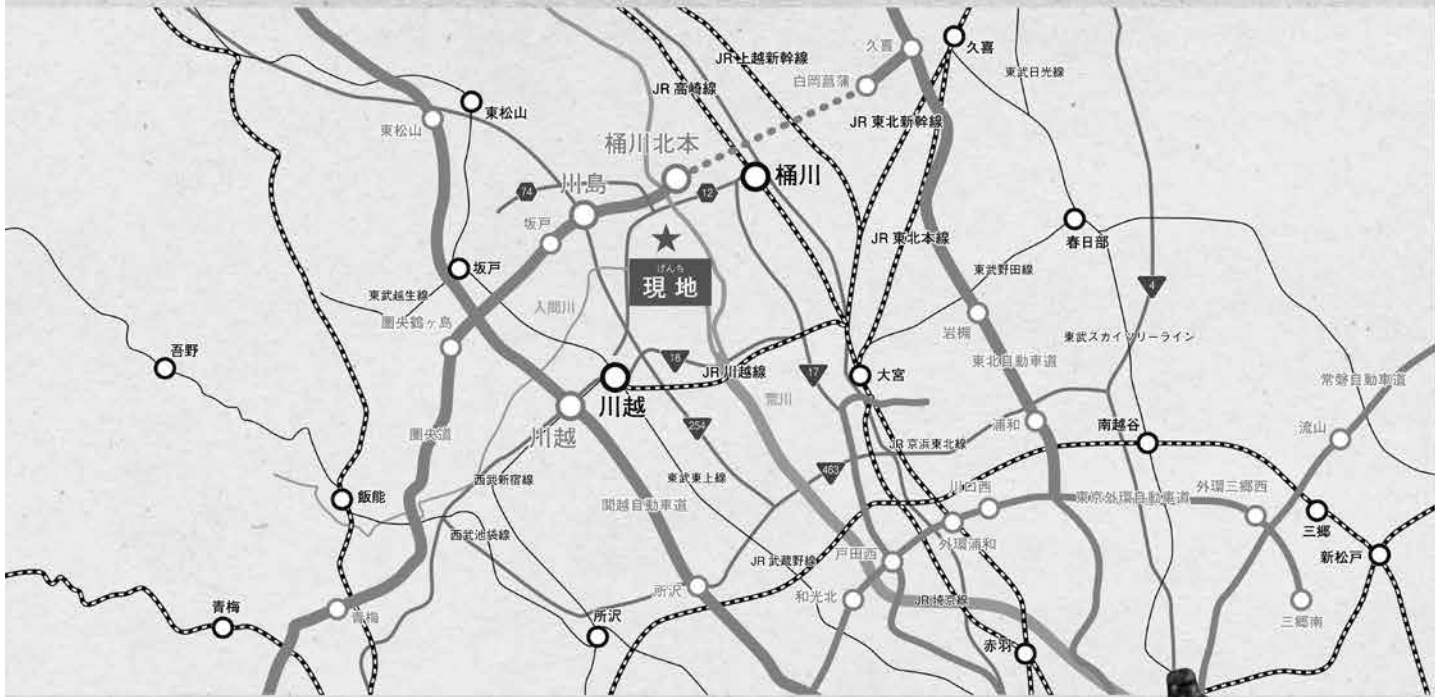
ミクリ

みずべにはえる植物。  
高さは0.5~1.5mほど。  
6~8月に実をつけるよ。  
最近、各地でみずべが  
失われ、数少なくなった  
植物のひとつ。



植物をふみつけないように観察路(木道)を通  
ります。観察路の下はイタチなどの生きもの  
の通り道にもなります。

# 荒川太郎右衛門地区自然再生地へのアクセス



## お車でのアクセス

**関越自動車道：川越 I.C. より 約30分**  
 国道16号→国道254号線を東松山方面へ→「宮元町」交差点を右折→県道12号線を桶川方面へ

**圏央道：川島 I.C. より 約10分**  
 国道254号線を東松山方面へ→「南園部」交差点を右折→県道74号線を道なりに→「山ヶ谷戸」交差点を右折→県道12号線を川越方面へ

**圏央道：桶川北本 I.C. より 約10分**  
 県道12号線を川越方面へ→太郎右衛門橋先を左折

**国道17号線：坂田交差点より 約15分**  
 県道12号線を川越方面へ→太郎右衛門橋先を左折

**ホンダエアポートを目標としてください。**  
 ※車で行く方への注意  
 車は農道には入れません。訪問された場合は堤防からホンダエアポートに下る横堤わきに駐車してください。



## 電車・バスでのアクセス

- JR 高崎線：桶川駅西口より 東武バス「(川越 04) 川越駅行」約12分
- JR 川越線：川越駅東口5番乗り場より 東武バス「(川越 04) 桶川駅行」約28分
- 東武東上線：川越駅東口5番乗り場より 東武バス「(川越 04) 桶川駅行」約28分
- 西武新宿線：本川越駅5番乗り場より 東武バス「(川越 04) 桶川駅行」約25分

共に、「山ヶ谷戸バス停」下車 徒歩15分

みんなからの連絡待っています！

## 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

<https://sites.google.com/site/tarouemonarakawa/>

国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町3-12 TEL: 049 (246) 6371 FAX: 049 (247) 9850

E-mail: tarou@ktr.mlit.go.jp

[http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo\\_index025.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo_index025.html)



平成26年4月 制作



あらかわたらうえもんちくしぜんさいせいぎょうかい  
荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

あらかわたらうえもん  
荒川太郎右衛門を  
知っていますか？

ゆたかなしぜんとをもどすために。

あらかわたらうえもんちくしぜんさいせいぎょう  
荒川太郎右衛門地区自然再生事業

あらかわ  
荒川の河川敷に豊かな  
しぜん  
自然を取り戻すため、  
なかま  
仲間を募集しています！



あらかわたらうえもんちくしぜんさいせいぎょう  
荒川太郎右衛門地区自然再生事業  
イメージキャラクター  
「たろえもん」

あらかわたろうえもんちくしぜんさいせいじぎょう  
**荒川太郎右衛門地区自然再生事業**  
概要

「荒川」は、甲武信ヶ岳に源を発し、秩父盆地・長瀬溪谷を経て関東平野の埼玉・東京の都県境を流れ、東京湾に注ぐ長さ173キロメートルの一级河川で、「荒川太郎右衛門地区自然再生地」はその中流部の桶川市・川島町・上尾市に位置する広大な河川敷です。

「太郎右衛門」の名称は、江戸時代にこの地で渡し船を開設した人の名前とされ、この地域や橋の名称に今も受け継がれています。

「荒川太郎右衛門地区自然再生地」は、約70年前の河川改修で荒川の本流が直線になったとき、旧流路として残った3つの「池」を中心とした場所です。

しかし、かつて湿地が広がっていたこの場所は、「①河床低下により池を中心とした湿地が減少してきている」「②樹林地が高木・壮齢化してしまい河畔の特徴的な姿が失われてきている」という大きな課題があります。

「荒川太郎右衛門地区自然再生事業」は、この荒川太郎右衛門地区で、本来の自然環境を取り戻そうとする「自然再生推進法」(平成14年制定)に基づく事業です。

自然再生とは、過去に損なわれた生態系その他の自然環境を取り戻すことを目的として、行政機関、地域住民、環境団体、専門家など地域のいろいろな方たちが参加して、自然環境を保全、再生、創出、維持管理することをいいます。

自然環境の保全

良好な自然環境がある状態を積極的に守ること

再生

損なわれた自然環境を取り戻すこと

創出

大都市など自然環境がほとんど失われた地域を緑の空間の造成などにより、その地域の自然生態系を取り戻すこと

しみんさんか と  
**市民参加の取り**

あらかわたろうえもんちくしぜんさいせいじぎょう  
荒川太郎右衛門地区自然再生協議  
しみんさんか さまざま と く  
市民参加により様々な取り組みを

きょうぎかい  
**協議会**

取り組みの内容を決めるため、  
年に2~3回、室内や現地での  
会合を行っています

このパンフレットに掲載している写真は、  
協議会委員が撮影したものです。

# 組み

かい  
会では、  
おこな  
行っています。

# 移植

さいたまけん けん ちゅう  
埼玉県の「県の蝶」、ミドリシジミの餌になる  
いしよく おこな  
ハンノキの移植を行っています



# 広報

あらかわたろうえもんちく  
みなさんに荒川太郎右衛門地区  
しぜんさいせいじぎょう  
自然再生事業を知っていただくため、  
せいびち じんちゅうかんまつ  
整備地で昆虫観察などのイベントを  
おこな  
行っています



みんなも参加してね！

こうこうせいたいしよう こうほ けつてい  
高校生対象の公募で決定した  
イメージキャラクター  
「たろえもん」



# 調査(モニタリング)

ちゅうさ  
とく  
取り組んだことが、目的にあっているかを  
かくはん ちゅうさ けんた  
確認するために調査や検討を行っています



# 維持管理

いじかんり  
せいび ばしょ  
整備した場所の  
かんり かんり  
管理・見守りをしています





あらかわたろうえもんちくしぜんさいせいち おこな ころじ しょうかい  
**荒川太郎右衛門地区自然再生地で行っている工事の紹介**

しっち さいせい つち ほ こうじ えさ  
 「湿地」を再生するための土を掘る工事や、「ミドリシジミ」の餌である  
 ハンノキの移植などを実施しています。



平成 24 年 4 月 9 日



平成 25 年 10 月 28 日

しっち およ しずいかんきょう かくだい  
**湿地及び止水環境の拡大**

がいにしよ しげ ぼしょ  
 外来種が茂っている場所などを掘っ  
 て湿地を利用する在来種が生育・生  
 息できる場をつくっています。



平成 24 年 4 月 9 日



平成 25 年 10 月 28 日

きゅうりゅうろ ほげん さいせい  
**旧流路の保全・再生**

きゅうりゅうろ ほ ちいき  
 旧流路を掘って、もともとこの地域  
 にいた生き物が生育・生息できる場  
 を再生しています。



自然再生で目標とする生き物たち



シュレーゲル  
アオガエル



バン



イシガメ

ミドリシジミ



カワセミ

サシバ



平成24年4月9日



平成25年10月28日

河畔林の保全・再生

シンジュやオオバクサなどの外来種をとってハンノキを移植し林を再生しています。

あらかわたろうえもんちくじぜんさいせいち  
 荒川太郎右衛門地区自然再生地にいる生き物たち

すいめん すいちゆう せいいく せいそく い もの  
 水面・水中に生育・生息する生き物



オオバン



シマドジョウ



トウヨシノボリ



ヌマエビ



ヒシ

しつち せいいく せいそく い もの  
 湿地に生育・生息する生き物



ハナウド



オオヨシキリ



ホンドカヤネズミ



チョウトンボ



ホンドイタチ



タゲリ



## 川の国応援団

首都圏の生物多様性の拠点 堤防と都市林

菅間宏子 特定非営利活動法人 荒川の自然を守る会

### 1 はじめに

1991年 荒川の自然を守る会の設立。こどもの頃楽しんだ自然を子ども達にも楽しんでもらいたいと思いました

荒川の自然を守る会では、上尾市、川越市、川島町にまたがる三ツ又沼ビオトープ周辺の自然保全活動を中心に、隣接する市町村の自然環境の保全に取り組んでいます。

会を設立して以降、自然環境の調査の他、行政などへの要望、市民への啓蒙活動を行ってきました。外来植物の対策にも力を入れてきました。2003年 NPO 法人となり、2014年には、自主的に河川環境の保全等の活動を行う NPO として、国土交通省の河川協力団体にも登録されました。

### 2 活動から学んだこと

荒川の河川敷の広さは日本一でそこには多くの自然が残されています。その自然を将来世代に残すために各方面に働きかけました。

この活動の中で次のようなことを確信しました。

「荒川の河川敷の自然環境を重視しなければならない」

◎荒川は多様な生物の宝庫で

生物多様性に富んだ自然がある。また都市林も支流も荒川の源流である

◎堤防は首都圏の大草、日本らしい風景を作り出している。

◎荒川の自然は将来世代の財産。「生態系サービス」を提供する資源である。

いま国で進められている「生物多様性国家戦略 生物多様性基本法」は将来世代にとって必要であり、当会の活動と図らずも一致していました。

### 3 活動の内容と問題点

◎活動

- ・多様な日本の自然を将来世代に伝える。観察会・外来植物の駆除・調査など
- ・自然の楽しさの伝承 必要性の啓蒙・環境教育

◎問題点

- ・生物多様性が失われている。
- ・外来生物の増加

アライグマ ミシシッピーアカミミガメなどが生物多様性を奪い農業被害の増大。外来植物や栽培種が日本の在来野草の生息地を奪っている。ヒガンバナ 菜の花など。 「河川は花壇ではありません。」

- ・自然保全には人手が必要

学校教育 地域住民への啓蒙と参加呼びかけ 企業との連携

- ・国、埼玉県、流域の行政との連携が重要

国との協働の例

生物多様性を考慮した河川工事について荒川上流河川事務所と市民団体の定期的な協議・堤防工事でミテェゲーション

策定された荒川河川整備計画への市民・女性の参加を求めている。

#### 4 問題

- ・生物多様性の保護・拡大が急がれる。

「河川は首都圏にとって貴重な自然があり、これは将来世代の財産になっている」という市民・行政の認識と合意の形成が必要

- ・活動の担い手の育成

生物多様性への理解と保全方法の周知のための組織確立を

- ・行政と市民の協力

上記のために埼玉県・流域市町村の主体的な参加と県民の協働が欠かせない。

川はつながっている。国・県・市町村の役割と権限を連携していく。

市民の参加は必須。行政だけでは川は守れない。

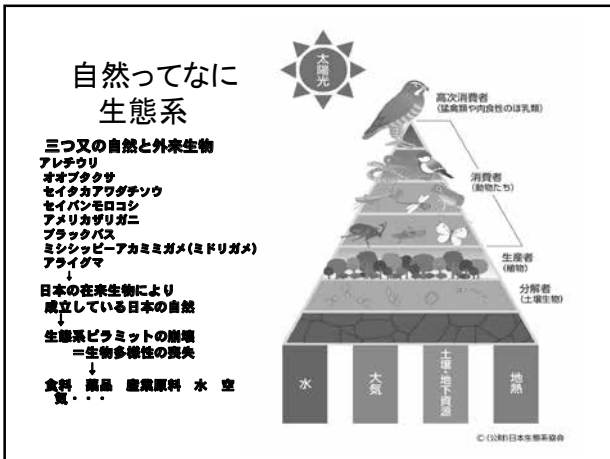




**「河川敷の環境の重視を」**  
**○荒川は多様な生物の宝庫**  
 生物多様性に富んだ自然がある  
 都市林も支流も荒川の源流  
**○堤防は首都圏の大草原**  
**◎荒川の自然は 将来世代の財産**

生物多様性国家戦略  
生物多様性基本法





- ## 生態系サービス
- **供給サービス**: 淡水や食糧、燃料、医薬品原料など一次原材料の供給を行う
  - **調整サービス**: 気候変動、大気、水などの状態を調整し安定させる
  - **文化サービス**: 審美的、感情的、精神的充足やレクリエーションの提供、新たな科学的発見を生み出すアイデアの提供(生体工学)など多岐に渡る文化面でのサービス
  - **基盤サービス**: 光合成による食糧、養分循環や土壌の肥沃土の維持など付加価値の創造や人間の生産活動を支える

- ## 荒川の自然を守る会
- ### 活動の内容と問題点
- 活動
- ・多様な日本の自然を将来世代に伝える。
  - ・自然の楽しさの伝承 必要性の啓もう
- 問題点
- ・生物多様性が失われている。
  - ・外来生物の増加 人為的 盗掘
  - ・自然保全には人手が必要
  - 学校教育 地域住民への啓もうと参加 企業との連携
  - ・国、埼玉県、流域の行政との連携

- ## 活動
- ・多様な日本の自然を将来世代に伝える
  - ・自然の楽しさの伝承 必要性の啓もう

## 三ツ又沼ビ オートプの 活動

いろいろな方々の協力  
 ・武蔵野銀行の方たち  
 ・上尾ライオンズクラブ  
 ・上尾ライオネスクラブ  
 など



## 三ツ又沼ピ オトープの 活動



- ・春の観察会
- ・カテンソウの開花
- 小学生「じゅうたんみたい」



## 親子自然塾三つ又



自然は楽しいよ

## 親子自然塾 草木染教室

(夏休みの自由研究)

自然は使える



## 問題点

- ・生物多様性が失われている。
- ・外来生物の増加 人為的破壊 盗掘
- ・自然保全には人手が必要
  - 学校教育 地域住民への啓もうと参加
  - 企業との連携
- ・国、埼玉県、流域の行政と住民との連携

## 外来動物たち

アライグマ ミシシッピーアカミミガメ.....  
農業被害も甚大  
流域全体で駆除する必要性 退治すると隣へ移動





日本の在来種は



日本らしい自然を守り残す活動



外来植物の連鎖

4月ナノハナ 9月オオブタクサ



春から秋の  
セイバンモロコシ

ミツ又沼ビオ  
トープの活動



外来植物や栽培種が日本の在来野草の生息地を奪います  
在来野草の保護のために除草をしています

自然保護？ なぜ 植えるのですか  
河川は花壇ではありません



アマナの日照を奪うヒガンバナ





## 子孫の自然財産を守るのか 現代人が自然を消費するのか



・ 太郎右衛門自然再生地に運まわっている産業廃棄物 牛糞  
・ 自然に配慮した農産物は多様な生物をはぐくむ



・ ゴルフ場 グラウンド 除草剤・  
・ 影響はやがては下流へ



大村先生発見のような未知の自然財産を現代人が壊してよいのか

## 課題

### ・ 生物多様性の保護・拡大

外来種生物の問題

河川は首都圏にとって貴重な自然地

将来世代の財産という市民・行政の合意を

### ・ 活動の担い手の育成

生物多様性への理解と保全方法周知のための組織確立を

### ・ 行政と市民の協力

上記のために埼玉県 流域市町村の主体的な参加と県民の協働が欠かせない。

# 分科会テーマ一覧 (13:30~15:30)

午後の部の進行は各分科会担当の応援団団体が担当



会場	テーマ
第1分科会	<b>綾瀬川・芝川流域分科会</b> テーマ『清掃活動、学習活動、水質改善排水マナー、お楽しみイベント』ほか
第2分科会	<b>中川・古利根川流域分科会</b> テーマ『流域の川づくり、美化活動、農水路保全、環境学習』ほか
第3分科会	<b>元荒川流域分科会</b> テーマ『美化活動、魚の保全、歴史をつなぐネットワークづくり』ほか
第4分科会	<b>新河岸川流域分科会</b> テーマ『湧水を生かした川づくり、河畔林の保全、アユの川のモデルに』ほか
第5分科会	<b>不老川流域分科会</b> テーマ『30年の活動を振り返る、文化と歴史をつなぐまちづくり、新しいネットワーク』
第6分科会	<b>北部・西部（比企・秩父・本庄）流域分科会</b> テーマ『川づくりと環境保全（自然と心を結ぶ川づくり）』
第7分科会	<b>学生交流分科会</b> テーマ『水辺（水辺をフィールドに様々な活動をしている学生主体の分科会）』

分科会参加団体・人数一覧(※はパネル展示のみの団体)

No.	団体名	人数
1	綾瀬川を愛する会	7
2	綾瀬川をきれいにする会	3
3	荒川クリーンエイドフォーラム	1
4	荒川の自然を守る会	4
5	荒川流域ネットワーク	2
6	荒川夢クラブ	1
7	いきがい大学幸手35	4
8	市野川水系の会イン滑川町	1
9	エコシティ志木	1
10	エコネットくまがや	15
11	忍川の自然に親しむ会	10
12	鴨川水辺サポーターの会	5
13	川越の魅力を育てる会	※
14	唐沢川を愛する会	1
15	川爺	8
16	川にやさしい浄化槽	1
17	川原自治会「川の応援団」	1
18	環境サポート埼玉	1
19	久喜市青毛堀・稻荷台用水 環境保全会	3
20	熊谷市ムサシミヨをまもる会	5
21	クリーン&ハートフル川越	1
22	黒目川に親しむ会	1
23	慶応大学(栄東高等学校OB)	1
24	鴻巣の環境を考える会	1
25	越谷ふるさとプロジェクト	2
26	埼玉県川の博物館	1
27	埼玉県生態系保護協会春日部支部	1
28	埼玉南部漁協朝霞支部	1
29	栄東中学校・高等学校	8
30	笹目川の環境を守る会	2

No.	団体名	人数
31	舟運 ふじみんの郷	4
32	城西大学理学部化学科 環境生命化学研究室	3
33	すぎとエコグリーン	1
34	草加環境推進協議会	1
35	草加パドラーズ	6
36	伝右川をみまもり隊	1
37	東京大学(栄東高等学校OB)	1
38	戸田の川を考える会	6
39	独協埼玉中高サイエンス部	7
40	原市沼を愛する会	1
41	比企の川づくり協議会	5
42	福川を愛する会	5
43	福原水と緑の会	1
44	古利根川わくわく隊	1
45	不老川をきれいにする会	3
46	不老川流域川づくり市民の会	1
47	ボーイスカウト深谷第2団	1
48	法政大学水分地理学研究室	3
49	本庄早稲田まちづくり活動勉強会	1
50	三郷の川をきれいにする会	4
51	見沼代用水土地改良区	※
52	元荒川の自然を守る会	1
54	米山ゼミ伝右川再生に向けた 支援プロジェクトチーム	3
55	よみがえれ元荒川の会	2
56	わくわく新河岸川みどりの会	1
57	和光自然環境を守る会 および赤池シャロン会	2
58	和土住宅中央用水をきれいにする会	1
	他 個人での参加	5
	小計	164

No.	団体名【市役所】	人数
1	熊谷市環境政策課	1
2	鴻巣市環境課	1
3	さいたま市環境対策課	1
4	草加市環境課	1
5	所沢市環境クリーン部環境対策課	1
6	ふじみ野市環境課	1
7	三郷市クリーンライフ課	1
8	八潮市環境リサイクル課	1
9	和光市環境課	1
	小計	9

No.	団体名【県機関】	人数
1	埼玉県水環境課	1
2	越谷環境管理事務所	2
3	埼玉県生産振興課	1
4	さいたま農林振興センター	1
5	西部環境管理事務所	2
6	秩父環境管理事務所	1
7	中央環境管理事務所	2
8	東部環境管理事務所	2
9	東松山環境管理事務所	3
10	北部環境管理事務所	2
	小計	17

合計 77団体・190名参加

## 第1分科会：綾瀬川・芝川流域分科会 討議報告

テーマ「清掃活動・学習活動・水質改善排水マナー・お楽しみイベント」

参加者36名

座長：綾瀬川をきれいにする会 高師 保一

スタッフ：幾島、中島

- 13:30 草加パドラーズの活動をDVDで報告：井坂
- ・綾瀬川浮遊ゴミをカヌーで回収
  - ・河川環境の美化活動（綾瀬川左岸のゴミ拾い）
  - ・活動地域は草加市松江1丁目～3丁目  
綾瀬川の松原大橋～松江橋 付近
  - ・世界で問題になっているマイクロプラスチックゴミの原因のひとつであるレジ袋などは風で飛んで川で捕獲され海に流れていく。
  - ・カヌーの船着き場を増やしてほしい（越谷市内など）
- 13:45 伝右川再生に向けた支援プロジェクトチームの活動をパワポで報告：獨協大学3年 深澤なつは
- ・地球環境に優しい間伐材を利用したカヌー作りと浮遊ゴミ拾い
- 13:50 グループ討議 テーマごとに4班に分かれる  
自己紹介、それぞれの活動の紹介
- 14:30 発表者・書記の選任、発表テーマの絞り込み、討議
- 15:10 各班の発表
- 15:30 終了

### 1班のテーマ「清掃活動」についての発表内容

発表者 栄東高校：齋木

1. 活動にはお金がかかる → 行政の補助金などを利用する
2. ゴミを捨てない意識を向上するには → ゴミを拾う人はゴミを捨てなくなる。地域の人たちの目に触れる地道な活動が大事。
3. 活動したい人はいるが予定が合わない → 1～2人でもできるので活動スタイルを検討する。
4. バイクや自転車などの粗大ゴミの種類によって処分方法が違う。盗難車の場合は警察を経由しなければならない。
5. 結論  
あきらめない地道な活動で地域の人々の認知が深まればゴミは減る。

### 2班のテーマ「学習活動」についての発表内容

発表者 東京大学：上原（栄東高校出身）

ボランティア活動から学べることは自分にとっては何か？

1. 何故始めたのか。その動機とは？
  - ・おもしろそうだから。
  - ・会社で取り組んでいるので。

- ・近所の川が汚いから何かできないか。
- 2. 活動の中で生ずる障壁
  - ・ゴミを集めたのに縦割り行政などで処分方法がわからない。
    - 活動者も行政もお互いのことを知ってもらい、お知らせし合い、お互いに歩み寄ろう。
- 3. 理念の引き継ぎ
  - ・新しい人が加わると活動を始めた時の理念が薄れて、わからなくなり、活動の方向がわからなくなる。
    - 活動者それぞれ出身地、意見、得意分野などが異なることは「多様性」として前向きにとらえる。
    - 継続し、次世代に引き継ぐためにも、その多様性（写真が好き、自然が好き、掃除が好き、など）人それぞれの特性を生かしていこう。
- 4. 結論
  - ちゃんとしっかり次世代へ引継ぎをしよう。活動の中で世代交流を行なおう。

### 3 班のテーマ「水質改善排水マナー」についての発表内容

発表者 鴨川水辺のサポーターの会：田原

1. 食事の際の心構え
  - ・てんぷら油の処理など、食器の汚れは、紙でふき取って、その紙は生ゴミとして捨てる。それから食器を水洗いする。
  - ・ふき取り用のぼろ布を用意しておいても良い。
  - ・食器の水洗いはアクリルたわしを使う。
2. 洗剤の使い方
  - ・洗剤には適量があり、多ければ汚れが落ちるわけではない。
  - ・車洗車に洗剤を使っているが、「川の汚れを減らすには、水洗いで充分」との呼びかけを地道に継続した結果、皆がそうようになり、今や洗剤を使いにくい雰囲気になった。
3. 川をきれいにする意識で排水に気を遣う
  - ・汚れた排水もさることながら、排水量を減らすと処理場の処理量が減る。
  - ・風呂水を打ち水に使うなど再利用しよう。
4. 環境への配慮
  - ・犬のふんは持ち帰るか、その場で土に埋める。
  - ・個々人にも環境配慮行動が求められている。少なくとも法律に触れるような投棄はしない。

### 4 班のテーマ「お楽しみイベント」についての発表内容

発表者 草加パドラーズ：木村

綾瀬川を愛する会の活動を参考に11項目考えた。

1. 木の実どんぐりコマ作り
2. 野草のてんぷらを食す会
3. 木の実、桑の実、びわジャムづくり
4. 秋の焼き芋大会

5. 木の枝隠れ家作り
6. 蟬の脱皮・羽化ナイトウォッチング
7. 手作りいかだ作り
8. うなぎ、なまずを捕って食す
9. 胡桃餅を食べる
10. ひらたけ、ハタケシメジなどのきのこ採り
11. 子どもを育てる・・・水運で小学校同士をつなげる。川遊びすることで川に親めばゴミを捨てなくなる。

#### まとめ、その他の意見

1. 第1分科会は次世代へのつながりへ、希望あふれる内容となった。2班の発表者の上原さんは現在東京大学在学中であり、1班の齋木さんはその後輩。彼らの発表は、問題点の捉え方が的確、かつ諸先輩の意見を即座に学び、それを反映する発表内容であった。
2. 集めたゴミの種類、投棄された場所により処理方法が違うのが現状である。この作業に清掃活動以上の手間がかかるのは、団体の活動の範疇を超える場合があり、困難な場合は活動を維持できなくなり、次世代へも引き継げなくなる恐れがある。行政で一本化できないものか。縦割りなので止む無しとするのではなく、市役所へ集約してほしい。実際に、越谷市は団体の活動で出たゴミすべての処理に対応してくれている。他の市でもできるはずである。





## 第23回 川の再生交流会 第2分科会 ～中川・古利根川流域分科会～

テーマ 流域の川づくり、美化活動、農水路保全、環境学習ほか

司会:小堤 敏正(忍川の自然に親しむ会・行田市民大学第5期環境グループ)

報告:鈴木 英雄(川にやさしい浄化槽フォーラム)

### ■参加者の自己紹介

- 倉松川の近くにある小学校(牛島)に対し環境学習を提供している。また、花木を植栽している(川のまるごと再生事業に含まれている)。
- 幸手市内から杉戸町の農業用水路として9.5kmの水路が、昭和63年に農業用水路の役目を終えました。現在、南側用水路と呼ばれ28年ぶりに通水、清流復活を目標にして用水路に散策用の木道を製作する等の活動をしている(平成28年7月2日地域再生交流会実施。WEBで「南側用水路清流プロジェクト」を検索すると日々の活動がみられます)
- 大落古利根川の川沿いに家を構えていて、川に遊歩道等の工事が目に入るので、俳句を掲示する看板の設置を要望。俳句を投函するポストはNPO等が種々工夫して設置する等活动している(水辺再生100プラン事業+川のまるごと再生事業に含まれている)。

### ■「忍川の自然に親しむ会」の活動をスクリーンを使って説明を受けました。

会の目的から始まって、2013年からの活動が丁寧に説明され忍川の洪水対策等から武蔵水路との関わりへ、佐間水門の作り方と発展して2013年10月の台風26号における水門の開閉にまで、大変勉強していると感心しました。そしてこの佐間水門に関して荒川と隅田川「旧岩淵水門と荒川知水資料館の訪問」へ展開して荒川放水路の工事と忍川との関係にまで及び、勉強していることがよくわかりました。また、日本堤と中条堤へと進んでいく所は川の国応援団の域を出て文献を調査して行政との交渉の光景が浮かんできます。浮間水再生センターにおいて高度処理施設の見学までしていた事、忍川の生物を調査活動している様子をTV行田に取材をうける等幅広い活動がわかりました。

忍川が目玉なる物を目指し活動していきたいと締めくくって発表は終了しました。

武蔵水路より取水を25t/sと説明されましたが1分間あたりではないでしょうか。また、冬の防火対策として忍川に水を貰いたいとの話が出ましたが、国交省は東京に対する水が大切なのであまり行政に期待しないほうがよいと思います！

■ 発表のスケールの大きさに圧倒され質問はこれのみになり討論に入りました。

- 流域会議を発足したい(大落古利根川)。  
突然ですがこの流域で活動している団体・個人のつながりを持ちたい。  
中川・綾瀬川・荒川流域会議等もあります。
- 倉松川ラインだけで考えたい(倉松川の上・中・下流域だけで考え、大落古利根川まではかかわりたくない)。
- 川はどうあるべきか 5~6 年前に調査しました。当時は洪水、防災にウエイトがあったのですが「多自然川づくり」を「多自然型川づくり」にシフトしています。  
川づくりのキャッチフレーズとして川だけでなく、田んぼ(冬でも水を入れる対策、コウノトリの繁殖に対し近郊では千葉県野田市の取組)治水、稲作づくりに発展している。  
緑の帯状として森林公園と川をどのようにつなげるか。広域的に生物の視点から川づくりを考える必要があると国交省の通達が出されている中、県としてこれのようにこれから川づくりを検討されていくのか、目の前にある川を綺麗にするのはよいですがネットワーク作りを真剣に考える時代になっていると感じます。
- 川の 100 プラン事業+まるごと再生事業で遊歩道等ができました。これからはこれらの維持管理で各団体・自治会等の働きが不可欠となる中で横のつながりを持ちたいと呼びかけているので「忍川の自然に親しむ会」さんが流域の皆さんを導いてくださるようお願いできませんか。
- もっと勉強したいので下流より始めては！
- 地理的には杉戸が中間なので「すぎとエコグリーン」の坂本さんがまとめてください。
- 行田、杉戸、越谷県土事務所があるので、この事務所単位で始めては如何ですか？
- 「忍川の自然に親しむ会」でやることは難しい。
- 来年(2018 年)もこのような分科会が予定されています。来年の分科会では少し進んだ話が出来ることを望みます。
- 

#### 【まとめ】

時間が来てしまい他の団体の意見が聞けなかった事、栄東高校の長澤さんが1人参加して下さり、若い方の意見を是非聞きたかったのですが、意見を聞く事が出来なかったことを謝りたいと思います。「いきがい大学幸手 35」の市民大学生が参加していました。同じ行田市民大学との交流を深めるべき討論を期待したのですが、時間がなく終わってしまいました。来年も是非参加していただければと思います。



## 平成28年度「川の再生交流会」第3分科会「元荒川流域」分科会報告

- ・ テーマ「美化活動、魚の保全、歴史をつなぐネットワーク」ほか
- ・ 参加申し込み人数 13団体47名
- ・ 次第 (敬称略)
  - 1) 開会のあいさつ及び進め方の説明 川島秀男座長 13:30~13:35
  
  - 2) 話題提供 13:35~14:05
    - ① 川島秀男 (鴻巣の環境を考える会)  
「美化活動、水質調査、小学生の水質調べと生き物観察、環境学習など」
    - ② 新井 治 (元荒川の水辺に親しむ実行委員会)  
「元荒川カヌーやウオークを通じて歴史をつなぐネットワークづくり」
    - ③ 江守和枝 (熊谷市ムサシトミヨをまもる会)  
「県の魚ムサシトミヨの保全と保護活動や環境学習」
  
  - 3) 4グループに分かれて自由討議 (進行リーダー) 14:05~15:05
    - A班 川島秀男リーダー (鴻巣の環境を考える会)  
生態系を戻すための護岸工事など活発な意見交流が出来た。
    - B班 新井 治リーダー (元荒川の水辺に親しむ実行委員会)  
外来種駆除、水に親しむエコスタイルなど活動方針の交流が出来た。
    - C班 大澤慶三リーダー (ボーイスカウト深谷第2団)  
川の3大テーマ、①長続きさせる②子どもと自然づくり③楽しい川。
    - D班 江守和枝リーダー (熊谷市ムサシトミヨをまもる会)  
女性が外に出たがらない。ムサシトミヨを守る活動や生態系を語る。
  - 4) グループワーク終了後各リーダー (A班~D班) がまとめ発表を行った。  
参加者全員で確認し合う。最後に意見や感想など質疑応答を行った。  
15:05~15:25
  - 5) 閉会のあいさつ 川島秀男座長 15:25~15:30  
元荒川分科会として、多くの皆様の意見交換など良い交流が出来たと思います。  
元荒川流域にも、コウノトリが飛んでくるといいですね。  
本日は、ありがとうございました。



## 第4分科会 新河岸川流域

「湧水を生かした川づくり、アユの川のモデルに」ほか

参加者：27人

27人中17人が新河岸川流域の市民でしたが、他流域の市民や行政の方の参加もあり、また、流域内でもあまり知られていないこともあるため、初めに、新河岸川流域の特性について、パワーポイントを使って全員で簡単に再確認をしました。

その後、佐藤正康さんにファシリテーターをお願いして、全体でのワークショップを行いました。



ワークショップでは、まずそれぞれの団体が活動する川について簡単に紹介し、その後みんなで意見を出し合うという形で進めました。

昔の言い伝えや生き物、特徴など、いろいろな話が出てきて盛り上がりを見せました。

- 新河岸川の上流部は昔は赤間川といい、新河岸川にはかつての舟運の河岸の跡が一部残っている。濁って見えるが水質は良好である。
- 砂川堀の上流地域にはノウサギが生息しており、下流の合流付近にはイタチがいるが、中流から下流では、水に近づけない。
- 柳瀬川の下流部では、都の下水処理水が60%を占め、水温が異常に高く水質も良くないが、上流の北川ではホタルが自生している。
- 落合川の南沢にもホタルがいる。
- 武蔵野台地の先端部で荒川低地に向かっている地域では湧水がとても多い。
- 福岡江川では、三面護岸の川底にあけた穴から湧水が噴き出している。
- 和光市内には、10種類のカワモズクが生息している。
- しかし、不老川や空堀川ではしばしば瀬切れが起きている。
- 黒目川では最下流部に旧河道が残っており、まるごと再生事業で整備が行われて人が来るようになった。



## 第 23 回 川の再生交流会 第 5 分科会 ～不老川流域分科会～

座長：大石

### 【参加者】 15 名

1. 不老川をきれいにする会(町会系)	3 名
2. 不老川流域川づくり市民の会	1 名
3. 福川を愛する会	1 名
4. 福川水と緑の会	1 名
5. 法政大学	1 名
6. 戸田の川を考える会	2 名
7. 栄東高等学校理科研究部	教師 1 名、生徒 3 名
8. 埼玉県西部環境管理事務所	1 名
9. 埼玉県東松山環境事務所	1 名

不老川をきれいにする会は、32年前(1985年、昭和60年)に発足した。全国川の汚れワースト1が綾瀬川、2位不老川という不名誉な結果に県、市、住民が立ち上がったのです。会は狭山市、入間市、所沢市、川越市の沿川の町会連合会を母体にして組織されている。多いときは、ごみひろい活動で6,000人の参加者を得ており、多種多様な活動を展開した。

町会連合会という枠組みの限界は、多様な市民活動を制約し、行政型になる気配もあって、独自の任意市民団体(NPO)が平行的に活動し、活発な流域の活動が展開されてきた。

昨年、30年の節目に「活動のあゆみ」をCDに編集して事実上、4市連合の活動を終結させた。

その後は各市、各町会の自主的、独自に活動を行っている。

本「不老川分科会」は30年のあゆみと、これからの活動のあり方、連携のあり方を探る目的で設定された。

参加者の自己紹介と活動発表と討論の一部を報告します。

- 季節折々の伝統行事に合わせた活動は人気もあり子供も多く、今後も続けていきたい  
<他の参加者からも同様の発表有り>
- 盛んな時は、参加者にお茶、ジュース、おみやげも配り、用具も支給した。今はできないが、入曽地区24町会は2か月に一度、3人の割り当てで川に入ってごみ上げをする
- ビデオで川にアワが一杯映っている。あれは何ですか <洗剤使用が多い。洗剤のアワです>、下水道は無いのですか <接続していない家が多い>、家庭での排水マナーが悪いね <浄化槽の保守点検がされていない家が多い>

大石から、狭山、入間、所沢、川越は浄化槽の清掃・点検が県内でも悪い方で、うまくゆかない。市民運動もない。この地域は、下水道へ接続させない家も多くあつ



て、洗剤のアワが目立つのです

- ごみひろいの外、花壇の手入れもしている。小さな町会で 35 戸毎、会 6 人で活動している
- ビデオで魚を放流しているが、良くないのでないか <水系の異なる魚種はやめた方がよいでしょう。外来種は出来るだけ排除したほうがよいでしょう>
- 法政大学 10 年以上前から水質調査を行っている。昨年も入曽公民館で発表会を行っている。本流よりも支流で水質が、かなり差があることが多い <データが欲しいね。どんな差があるか、その差によっては下水道がないとか、浄化槽の清掃がされていないとか、工場排水が多いとか、分析、考察ができるよ>
- 栄東高等学校(さいたま市の緑区) 芝川での活動が主で、ごみひろい、水質調査です。午前の全体発表も行った。教師：不老川と芝川は類似点が多い
- 6 月に行われた、清瀬市の空堀川と柳瀬川交流見学会に行った。レベルの高い活動を知った。入曽は交通アクセスが悪いので、交流会に来てくださいと言っても、皆さん遠くて来ないだろう
- 狭山市は下水道 95%とあり、川の水質は良いはずだが <市の発表は下水道事業のうち、95%が進んでいるデータです。下水道の事業計画を確立していない地区は含めていないので不正確な数値です>
- 埼玉県東松山、西部環境管理事務所 秩父地区に住んでいる。川も環境もずいぶん違う。互いに学んで交流することが大切です。

#### 【まとめ】

今回、不老川分科会として交流しましたが、来年は別の分科会に合流しますので今回限りです。

活動は目的、活動方針、哲学が異なっており、協働が難しい。この違いをしっかりと受け止めて、別々に独自に活動するテーマと協働、連携するテーマを見極めて流域の活動を展開しましょう。

以上



## 第6 北部・西部（比企・秩父・本庄）流域分科会

### テーマ『川づくりと環境保全（自然と心をつなぐ川づくり）』

第6分科会は4班に別れて話し合った。事前に、以下のようなレジメを渡し、このレジメを題材にして検討してもらうことを座長の山本正史が説明した。参加者は28名。

#### レジメ

「県西・県北の河川を昭和30、40年代のように魚があふれ、人もあふれていた河川にするためにはどうしたら良いか」を具体的目標として下さい。

①にぎわいのある河川・町にするには自治体（市町村）との連携・協力が大切ですが、現在、どのような連携・協力をしていますか。またはしていないのなら、どうしたら良いかを検討して下さい。

②魚がかつてのようにたくさんいるように増やすにはどうしたら良いでしょうか。具体的にお話し下さい。

③その他

4班はリーダーを決め、そのリーダーの下に話し合った。おおよそ、13時半から14時15分まで参加者の自己紹介、活動内容を話し、14時15分から15時10分まで検討会、15時10分から15時45分までを4班のまとめ発表を行った。

班リーダーは次の方にしていただいた。

1班／栗田照正（深谷市、唐沢川を愛する会代表）

2班／渡辺仁（東松山市、比企の川づくり協議会代表）

3班／稲田滋夫（東松山市、岩殿満喫クラブ代表）

4班／鈴木勝行（鶴ヶ島市、NPO荒川流域ネットワーク代表）

まとめ発表では、次のように発表された。

**1班**／①の自治体との連携では、清掃などは市との連携は必需。草刈りやゴミの搬出では市がトラックで運送してもらわなければならない。また、軍手、タオル、さらには草刈り機も多くあった方が良い。であるから、市議の参加も要請し、広報は市の広報紙でPRすることが大切。寄居町ではアユの放流に町議が参加している。

また、②魚を増やすには、禁漁区を設置するとか、魚道の整備、ウグイなどの産卵地の整備、外来種の駆除などを推進していくが発表された。また、川を良くしていく。つまり、ワンドを作る、瀬と淵を設けるなど。

**2班**／①の自治体との連携では、キツネノカミソリ保護活動における滑川町との連携、獨協大学では近くの小学校との連携が発表された。近くの企業との協力も必要であり、そうすれば、重機の運用も可能となる。また、ロータリークラブに協力を求めることも必要。

PRしていけば、応援したい人達も出てくる。活動を中央プレイヤーとすると、中央プレイヤーが中心となって、人、物、カネが動かすことが大切。

また②では、埼玉の目玉の魚をつくることが重要かと討議された。地域に合った魚である。カムバックサーモン運動とか。田んぼにナマズとか。

何しろイベントを仕掛けることが肝腎。また、イベントを盛り上げるには、たまに参加した人も温かく迎えることが重要である。人にやさしい川づくりを推進していこうと。

**3班**／班リーダー以外、熊谷市のエコネットくまがやの会員が集まるといって特異な班となった。それには理由があり、熊谷市の元荒川最上流には、貴重種の魚、ムサシトミヨが生息しているが、熊谷市はその流域の一角に、エコオアシス「ムサシトミヨ生息周辺緑地」を設置することとなった。そして、近い時期にそのエコオアシスの設計図をまとめる必要がある。その設計図をこの機会にまとめていきたいとなり、3班は検討会のなかで、熱心に構想をまとめ発表した。

**4班**／①親を交えたイベントが必要ではないだろうか話し合った。ライジャケを着け、親子で遊び、川の魅力を知ってもらう。大自然は大都市には無い。県西、県北にはこの大自然がいっぱいある。また、魚を食べるといことも大切。すると、川をきれいにしようとなっていく。

②の魚を増やすでは、川の整備が必要。整備しすぎという川もあったが、最近では行政も川の整備の仕方を覚えてきた。市民団体と話し合いながら、整備していくと手法も普及してきている。

発表者は、次のとおり。

- 1班／鈴木敏資（NPO環境サポート埼玉代表）
- 2班／森松寿夫（前・熊谷市環境政策課長、エコネットくまがや）
- 3班／小川泰弘（エコネットくまがや）
- 4班／上野貴幸（北部環境管理事務所）



会場風景（2班）



1班より見た会場風景

## 第 23 回 川の再生交流会 第 7 分科会 ～学生交流分科会～

### 【参加者】 17 名

1. 独協大学米山ゼミ、伝右川再生に向けた支援プロジェクトチーム：飯島 竜太郎君
2. 城西大学理学部化学科、環境生命化学研究室： 齊藤 達也君と田代 拓也君
3. 独協埼玉中学高等学校サイエンス部： 香束 卓郎先生、板倉 晃希君、関田 晃仁君、船生 悠貴君、遠藤 美翔さん、浅野 莉沙子さん、天野 凜さん
4. 埼玉県立川博物館： 藤田 宏之氏
5. 荒川の自然を守る会： 大室 春雄氏（植生に強い）
6. 三郷の川をきれいにする会： 篠田 正樹氏
7. 埼玉県北部環境管理事務所： 田嶋 大紀氏
8. 所沢市役所： 佐藤 周平氏
9. 戸田の川を考える会： 長谷川 孝雄氏（司会）
10. 笹目川の環境を守る会： 柳沢 忠氏（まとめ）

### 【開会・趣旨説明】

- ・学生交流の分科会を開催した趣旨説明(司会より)
- ・今までも学生サークルの参加はあったが、学生同士の交流を目的とした分科会は今年度が初めての試みである
- ・活動しているフィールドが属する流域の分科会に参加する事も考えられるが、初回という事もあり「学生交流」を主体とした
- ・テーマは「水辺」とし、水辺をフィールドに様々な活動(環境美化、水質調査、生態調査、スポーツ、レクリエーションなど)をしている学生主体の分科会である

### 【自己紹介】(学生サークルのみ)

- ・獨協埼玉中高サイエンス部：新方川(にいがたがわ、千間堀)の水質調査を行っている
- ・城西大学理学部環境生命科学研究室：キャンパスのある坂戸周辺の河川を対象に環境DNAの測定、解析を行っている
- ・獨協大学米山ゼミ伝右川再生に向けた支援プロジェクトチーム：大学の脇を流れる伝右川を対象とした環境保全、カヌーを使った清掃活動、生物多様性調査などを行ってきた

### 【話題提供】

1. 獨協大学と草加バドラーズによる伝右川清掃活動の動画
- ・草加バドラーズが作成したDVDを放映し、清掃活動に携わった獨協大学の飯島君が説明
  - ・市民活動と学生生活の協働活動事例として報告

## 2. 獨協埼玉中高サイエンス部による研究発表(発表者は中学生、板倉君と関田君)

- ・新方川の水質調査を年間通して行っている
- ・測定項目は透視度と pH
- ・経年変化や日間変動を通じた傾向から、何が言えるのか検討したい

※当初、パネル展示の予定であったが、立ち寄る人や説明を求める人もいなかったため、分科会での発表を希望

### 【ディスカッション】

・独協中学高等学校の発表に対し、サンプリング方法や測定項目について質問やアドバイスが出た・・・川から汲んだ河川水を学内に持ち帰って測定している。24 時間を通して採水する装置を検討している。県に要請すれば、COD パックテストキットを入手できるのではないかというアドバイス有り

・水質分析と合わせて、植生や生物調査も行った方がよいのではないかとの意見

・学生の活動では、個人の活動期間が限定され、継続性をいかに保つかが重要ではないか・・・行政も同様の問題を抱えている。問題点が分かってきて方向性の目鼻がついたころ移動となる

・学生は、行政に対して意見を言う手段を持っていない・・・市民活動を活用すればよいのではというアドバイスが出た

・学生が年の離れた市民に対等にものを言うのは勇気がいる・・・ワークショップおけば(中学生であれば高校生や大学生を介在させる等)発言しやすいのではないか

・今後の学生交流分科会の在り方について・・・

①今回、学生交流となっていたので参加した

②当分、学生主体の分科会として継続してほしい

③流域毎に区分けされた分科会への参加は抵抗があり、難しいなどの意見が主流。

### 【まとめ】

・今回、三つの学生団体からの参加に対し、それ以外の団体が七つという組み合わせであった。ディスカッションでは、「学生」対「年長者」といった構図となり、当初の目論見である学生間の交流は少なかつたように見受けられた。ただ、分科会後には、それぞれで連絡先を交換し合うなど、今後の展開が楽しみである。

・ディスカッションに関しては年長者組から「あれもやったらどうか」とか「これもやるべきだ」といった類の提案が多く、「学生が年長者と対等に話すのは勇気がいる」といった発言も考慮すると、学生たちに「押しつけ」のイメージを持たれるような発言は自粛すべきではないだろうか

・学生たちの活動は、活動自体が目的であることが往々にしてある。環境保全や清掃が主体

であればよいが、例えば、水質調査なら調査が目的となり、その結果を「何に反映する」とか「どのように使う」といったことは二次となる場合も出てくる。一つには学生の活動期間が限定されていることもあろうが、このような場面で市民団体との協働が生まれるのではないだろうか(指導教諭、教官のスタンスが最重要であろうが・・・)

・城西大学の学生が行っていた環境 DNA 測定は、その手法、技術の確立自体が目的である。環境 DNA は水中に溶存している DNA を測定し、その水系に生息する生物種や生存数を推定しようとする日本独自の技術で、開発されてから日も浅く発展途上の将来が楽しみな測定技術である。残念ながら他の参加者の活動とレベルが離れすぎていたためかディスカッションの俎上には上らなかったが、実験データと実際の生態調査結果を照合するなどして分析精度向上に役立てる等の接点はあるはずである。幸いにして彼らも、来年の交流会に参加したいとの事であった。

・学生の大多数は当初、参加に不安を抱いていたというが、「来年もぜひ続けて欲しい」、「来年も参加したい」との意見が多かった。参加の学生生徒諸君には「後輩に繋げて欲しい」、「もっと多くの中高校、大学に呼び掛けて欲しい」、との総括であった

#### 【特記事項】

1 階のポスター会場の見学時間および質問時間が設定されていなかった。来年は学生生徒の為にポスターセッションの時間をプログラムに最初から入れて欲しい、との声があった。



## 第23回 川の再生交流会のまとめ

埼玉県河川環境団体連絡協議会

埼玉河連（大石）

河川愛護交流会は県の呼びかけで23年前に始まり、川の再生交流会に発展して、今年で23回目の実績を誇ります。川の国応援団に登録した607団体(2015年4月現在)が、日常の実践活動を持ち寄り、交流と連帯を深めています。

2008年、県が川の再生100プラン事業の推進に当たり、県内の河川団体がバラバラでは対応できず、結束して協力、連携、提案の諸活動を推進する必要に迫られ、埼玉河連が結成されました。

昨年の3月に100プラン事業とまるごと事業が終結するに当たり、埼玉河連が次に進むべき道を検討してきました。

我々は基本に立ち返り、①流域の活動を基本にして、②川が地域社会の人々に関わる結びつきと協働、③住民と行政、河川団体の連携を中心にして「流域」の活動をしようと提案しました。

本年の交流会は、午前の二つの事例発表と午後の分科会はこの考え方に基づいて設定されました。

荒川での二つの事例発表(太郎右衛門地区の再生事業と三ツ又沼自然再生事業)は多くの団体が荒川と結びついており、そこで活動する事例を県全体の参考にしたいと考えました。また、県の「川の再生100プラン」と「まるごと」の締めくくり、まとめの総括発表を行いました。多くの課題を残した事業ですが、行政と市民団体が協働した事業であり、この体験は必ずや将来に生きてゆきます。

午後の分科会は初めての試みで、少々戸惑った面もありましたが、来年度へ生かして発展させる努力をしたいと思います。交流分科会は六つの分野に集約する必要があり、今年の設定には無理やりに収めたきらいがあります。来年は、六分科会にまとめるには改善・修正が求められます。みなさまの積極的な発案と活動を期待するものです。

学生サークルの交流会は残念ながら小規模になりましたが、県内に多くの大学キャンパスがあります。是非、呼びかけてください。

地域交流会は、各地域の川の見学、交流を目的にしています。今年は数か所で計画します。積極的な企画提案と参加をお願いします。

来年は2018年(H30年)2月3日(土)です。

多くの団体は高齢化とともに新しい活動スタイルを追求しています。元気な姿で日常活動を実践してゆくことを確認しましょう。

以上

2017年2月4日

## 川の再生交流会アンケート（結果）

埼玉県水環境課

・回収 85人／400人（回収率20%）
----------------------

## ●年齢を教えてください。

- |         |          |
|---------|----------|
| ・20歳未満  | 1件（1%）   |
| ・20～39歳 | 9件（11%）  |
| ・40～59歳 | 11件（13%） |
| ・60歳以上  | 64件（75%） |

## 1. 川の再生交流会をどのようにお知りになりましたか。

- |                                |          |               |    |
|--------------------------------|----------|---------------|----|
| ア：郵送の通知                        | 33件（39%） |               |    |
| イ：ホームページ                       | 7件（8%）   |               |    |
| ウ：彩の国だより                       | 9件（11%）  |               |    |
| エ：モーニングスクエア（FMラジオNACK5）        | 1件（1%）   |               |    |
| オ：その他                          | 36件（42%） |               |    |
| （オの内訳）団体から                     | 16件      | 彩の国いきがい大学伊奈学園 | 4件 |
| ちらし                            | 3件       | 知人から          | 2件 |
| 学校の先生／市環境課の連絡／環境保全会員／毎年参加／県の案内 | 各1件      |               |    |
| 空欄                             | 6件       |               |    |

## 2. 本日の川の再生交流会はいかがでしたか。

- |                |          |
|----------------|----------|
| ア：参加してよかった。    | 75件（88%） |
| イ：参加しなければよかった。 | 0件（0%）   |
| ウ：どちらでもない。     | 9件（11%）  |

## 3. 本日の企画で来年度以降も続けてほしい企画は何ですか。（複数回答あり）

- |                  |          |
|------------------|----------|
| ア：オープニングコーラス     | 63件（74%） |
| イ：事例発表（栄東高等学校）   | 51件（60%） |
| ウ：講演（国・県と地域の連携①） | 41件（48%） |
| エ：講演（国・県と地域の連携②） | 46件（54%） |
| オ：分科会            | 34件（40%） |
| カ：ポスター発表         | 15件（18%） |



4. 川の再生交流会についてご意見・ご感想があればご記入ください。(抜粋)

- ・荒川と元荒川をもう一度つなげてはどうだろう。シジミをもどしたい。
- ・県の魚でありながら県の担当者が居ないのは不信。
- ・川の再生事業終了とのこと、あとはどうなるのですか。
- ・講演に関してよく判らない説明であまり良くなかった。
- ・行政（県）が強い姿勢を持って頂き厚くお礼致します。
- ・これからも再生に力を入れてがんばってほしいと思いました。
- ・ウの最後の発表が良かった。これからですね。
- ・各団体の今後、後継ボランティア活動はどうしているのか。
- ・年に一度のお祭りのように楽しんでいます。良い企画をありがとうございます。
- ・セレモニーでは荒川の再生事業の国の説明は解説のみで。NPO はしゃべりすぎ。
- ・今回で 2 回目でしたが皆さんが熱心に取り組んでいる姿は感動します。私も何かできる事をやっていく様にしていきます。源遠長流を実感しました。
- ・ありきたりの報告が多かった印象がありました。流域住民や環境の将来像について語り、今後どうすればいいか話し合うなどの交流会があればいいと思いました。
- ・組長、幹部研修として行動の重要性を示して欲しい。
- ・良かったです。
- ・午後の部に昼食後、間に合わせるのが大変だった。特に午前の部にスケジュールをいれすぎではないか。12 時半まで要してしまった。昼食の時間を確保しにくかった。
- ・来年も参加したい。地元での活動も続けていきます。
- ・大変すばらしい発表でした。ありがとうございます。大石さん参考にさせていただきます。
- ・川の意義、必要性を再認識しました。ハード（河川整備）とソフト（維持管理）部分の責任分野明確化。
- ・これからも埼玉の川についてのイベントを開催してほしいです。
- ・初めて参加させていただきました。ありがとうございます。
- ・午前の講演に休憩があった方がよかった。会場をもう少し明るくして欲しかった。
- ・土手の外来種の話は良かったです。
- ・説明者のマイクの高さの調整を（芝川・高校生）
- ・紙の資料も映し出された画面も実にわかりにくいです。もう少し工夫をお願いします。

いします。せっかくの発表がもったいないと思います。資料は1ページにくつも入っていてわかりにくいです。手元に資料がないと全くわからない部分が多いです。

- ・ 埼玉連の発表が良かった。
- ・ ①埼玉連・国交省・地域の会がもっともっと連携の強化が必要と再確認。県の勝手な開発は不可。②協力団体が増加しているとのこと。全団体の名前を出すべき。
- ・ ポスター発表の時間があれば良いと思います。
- ・ ポスターセッションなど比較的負担の少ない発表形式を充実させて欲しい。他の分科会の資料も受付などで受け取れるようにして欲しい。
- ・ パネルをゆっくり見る時間が欲しい。
- ・ ①分科会申込をしたのに名前がなかった。(FAX送信) ②綾瀬川・芝川分科会は多すぎ、分けるべき。③荒川の自然を守る会の生物多様性についての話は良かった。埼玉連会長の自慢話より有意義だった。もっと聞きたかった。④分科会はテーマが大きすぎて内容が拡散してまとまりがなかった。
- ・ 隣の会場との壁がパーティションのため声がうるさく邪魔である。
- ・ 一つの部が1時間以上も入れ替わり講義をしていた。他の部が発言する時間がなく、交流会になっていなかった。進行役が時間配分をすべき。
- ・ 再生交流会の説明ですが、関係ないような事例発表をしているが時間のむだです。
- ・ 分科会について。発表だけで全ての時間をとって活動内容とかこれからの活動について意見がなかったです。他のグループの事も考えた時間を配分されたりして欲しかったです。
- ・ 分科会の司会者が全体の目的を理解していなかったから参考にならなかった。
- ・ 分科会が発表で終わってしまわない様に、交流できる形にしたほうが良い。
- ・ いろいろな地区のお話や様子が分かり良かった。自分達の団体だけが良いのではなく聞きあう大切さが伝わりました。
- ・ 多くの人にお会いでき、分科会でも勉強になりました。
- ・ 流域単位で身近な方々の活動が理解できました。
- ・ 来年もどうぞやって！
- ・ 清掃活動に参加したいがその団体の一覧表等があればうれしいです。(市報・県報等公開 HPは駄目です。)
- ・ 10分ぐらいの休憩を入れるべき！県の説明が上から目線に見えた！新規入会の紹介制度を！会長様の過去の説明良かった。

- ・今後も参加させて頂き勉強したいと思います。
- ・オープニングのコーラスはすばらしかった。埼玉連の事業報告、評価。太郎右衛門地区の自然再生事業の報告で行政と市民との連携の重要なことがよくわかった。知事の出席を期待しています。(来年は！)
- ・もっと事例発表を多く行い色々体験した事柄や苦労話等を発表して、他の団体が活動する参考にしたい事が知りたかった。
- ・初めての参加です。分かったこと 川的环境は良くなっている。(遅々としてではあるが)
- ・特にありません。これからもよろしく申し上げます。

ご協力ありがとうございました。

